

人情を今に伝える

焼津の

浜言葉

長谷川寅吉 編著

人情を今に伝える

焼津の

浜言葉

長谷川寅吉 編著



昭和 35 年頃、現郵便局付近から焼津駅を望む(『懐かしの焼津』より)

目次

浜言葉でつづる はじめに	5
標準語でつづる はじめに	7
長谷川寅吉さんに聞く	9
・インタビューを終えて	26
浜言葉を学ぼう！	27
・浜通りと浜言葉	29
・浜言葉ワンポイント講座	31
・浜言葉いろはかるた	33
・浜言葉交通安全標語	41
・創作童話【やいづの桃太郎】浜言葉版	43
・創作童話【やいづの桃太郎】標準語版	46
焼津の風物詩	49
・焼津だるま	49
・耳白半纏（みみじろばんてん）	50
・手拭襦袢（てぬぐいじゅばん）	51
浜言葉用語集	53

浜言葉版 紙芝居『津波だ！いなむらの火をけすな』	119
・ 焼津ゆかりの小泉八雲と浜言葉版 紙芝居	137
・ 浜言葉の辞書に学ぶ	139
あとながき	141
謝辞	143

特別付録

- ・ 浜通り絵図
NPO 法人浜の会、焼津市歴史民俗資料館のご厚意により提供していただきました。
- ・ CD版 焼津の浜言葉
DAISY 仕様（録音図書）のコンテンツを含んでいますので、DAISY 用アプリケーションソフトでの再生も可能です。



昭和 25 年頃の小石川。両岸に植えられた桜並木が人々の目を楽しませていました。（『懐かしの焼津』より）

浜言葉でつづる

はじめに

今は昔のその又昔のその昔、の話ジャアナエケーガ、20 数年前、私の母校で孫が通学している焼津東小学校から、「昔の話ショオ児童にシチャアクンネエか」と頼まれた。

ケーガ、ナンダッテ 初めてのコンダアモンデ、頭エ血がのぼっチャッテ、自分ジャア標準語で話ショオシテールツモリダケーガ、焼津弁が混ザッチャッテ、そのタンビに児童はワァーワァーガヤガヤ。話ン、シマッテから、児童から「焼津の方言を教えてクリョウ」と言われたモンデ、黒板へキヤータケーガ、20 位しか書けナエツケヤア。

先生から、「貴重な焼津の方言を遺しチャアドオダイ」と言われたモンデ、メモ用紙を持って思いついた方言をメモして、ノートへ書き替えたケーガ、夜、布団にヒヤアルト 次から次へと思いでエテ、眠れない日もアツタケヤ。そのノートがNHKの「発見ふるさとのお宝」の番組で全国放送サレチャッテ「発見ふるさとのお宝」に認定サレチャイマシタ。ソナコンデ 全国の人達から励ましの言葉をもらいました。

セーダモンデ 浜言葉 880 語の冊子第一巻を出しました。

平成16年には、浜通りに住む4名の友人に相談したら、俺とオンナジで“サーテ イヤー サー”、“オレンチャン ノ エエッサン”ダモンデ、話シャア バタバタ マトマツチャツテ、男衆は旧焼津に住む人、女衆は焼津で生まれた人、33人で『焼津の浜言葉を遺す会』を作ったケーガ、今じゃ老人となり、亡くなったり病気になったりして、会員は2、3人になってシマツテエ。

平成20年に、会員の作文のCDを作ったケーガ、コレンな自分の作文を自分が読んだモンデ コリヤー貴重な素晴らしいCDにナツタデエ。

焼津の浜言葉は「馬鹿と言われて怒るバカ、これがフントのバカンズラ」テ諺アルケーガ、乱暴な言葉だケーガ、焼津のテェランの温い人情が現れてるなあ。

みんなで浜言葉を遺さザア。



昭和20年代、小石川に浮かんでいた屋形船(焼津市歴史民俗資料館蔵)

標準語でつづる

はじめに

今は昔のその又昔のその昔、の話ではありませんが、20 数年前、私の母校で 孫が通学している焼津東小学校から、「昔の話を児童にしてもらいたい」と依頼がありました。

何しろ初めてのことでしたので、緊張してしまい、自分では標準語で話をしているつもりでしたが、焼津弁が混ざってしまい、その度に児童はざわついていました。終了後、児童から「焼津の方言を教えてください」といわれたので、黒板に書こうとしましたが、その場になると 20 位しか書けませんでした。

先生から、「貴重な焼津の方言を遺されてはいかがですか」と言われたので、メモ用紙を持って思い出した方言をメモしておき、ノートに書き替えていましたが、夜、布団に入ると次々と思い出され、眠れぬ日もありました。

そのノートがNHKテレビ「発見ふるさとのお宝」の番組で全国放送され、「発見ふるさとのお宝」に認定されました。そして、全国の人たちから励ましの言葉をいただきました。

それで、平成15年に、浜言葉880語の冊子第1巻を出しました。

平成16年には、浜通りに住む4名の友人に相談したところ、私と同じで気が早く人の良い者ばかりで話はあっという間にまとまって、男性は旧焼津地区に住む人、女性は焼津で生まれた人、33名で『焼津の浜言葉を遺す会』を結成しました。しかし、今では、年老いて、亡くなったり病気になったりして、会員は2、3人となってしまいました。

平成20年には、要望の多かったCDを製作しました。会員が自分の作品を自分で読んだもので、これは貴重な素晴らしい作品となりました。

焼津の浜言葉には「馬鹿と言われて怒るバカ、これがフントのバカンズラ」という諺もあるほど、乱暴な言葉ですが、焼津の人達の温かい人情があらわれていると思います。

みんなで、浜言葉を遺しましょう。



昭和20年代の昭和通り3丁目付近(『懐かしの焼津』より)

長谷川寅吉さんに聞く

聞き手：太田晴康

代々続いた商売と初代寅吉の思い出

—— 長谷川寅吉さんをご両親とも焼津のご出身ですね。

長谷川 明治 27 年に生まれた親父（＝初代の長谷川寅吉）は根っからの焼津の人。大正 10 年に独立する前は、鰯ヶ島の「サス中（なか）」って鰯節屋を手伝っていました。一方、おじいさんの長谷川米吉は岡部で生まれ、古くから続く鰯節屋「マル中（なか）」の婿養子。そこの娘と一緒にあったあと、分家して「サス中（なか）」を始めました。うちの親父が死んだときに戸籍謄本をとって初めて分かったんですが在所は桂島です。「マル中」って屋号はどのぐらいか分からないが、随分と昔からあるんです。家族にお相撲さんがいたんじゃないかなア。昔から「お角力（すもう）」と呼ばれていて、主の長谷川伝次郎は、「角力伝（すもうでん）」と言ったですよ。

その昔は、貧乏といっちゃ悪いが「格が下」の家の人が大きい家に嫁ぐときは、家同士が同格になるよう「かりそめ親」というのがいました。で、うちのおじいさんもお酒で有名な、あの初亀の家に頼んで仮の親になってもらって、初亀から婿に来たということにしたと聞きました。

—— 本家の「マル中」から「サス中」が分家し、さらに初代寅

吉の代になって「サス中」から分家して「サスヨ」になったわけですね。

長谷川 「サスヨ」の初代寅吉、うちの親父は屋号には由緒があるんだとよく話してましたね。今は「マル中」も「サス中」も商売をやめちゃったが、「サスヨ」は、今もわたしの息子が後を継いで「サスヨ長谷川商店」として続いています。

—— 「サスヨ」という屋号の由来は？

長谷川 「サス中」の駐在員だったころ、親父は石川県の七尾や氷見にブリや鯛の買い付けに行ってた。大正 10



「サスヨ長谷川商店」の看板

年に分家として独立した際、そのころお世話になっていたカニ風味蒲鉾で有名な鮮魚問屋の「スギヨ」の社長から「スギヨ」の「ヨ」の字をもらって、「サスヨ」となりました。屋号についてはよく自慢したですよ、伝統があるってね。分家したころは、餌屋の商売もやってて、浜当目の漁師相手に魚の餌を売っていたらしい。そのあと、昭和 3 年にはなまり節專業、わたしが物心ついたころは、もうなまり節屋になっていました。従業員が 4 人いたです。

—— 初代寅吉さんの思い出を聞かせてください。

長谷川 酒は飲まず生真面目。短気で曲がったことが大嫌い、人の不正を黙って見ちゃいない。本当に怖かった、おっかねえ親父でねエ。名は体を表すというのが猛虎の寅。当時、南浜では服部熊吉、「ガラキの熊吉」って人が幅をきかせてましたが、親父は北浜にいて「サスヨの寅吉」と呼ばれていた。この2人は「北の寅吉」「南の熊吉」とみんなに恐れられていましたよ。

今でも覚えているのは、焼津の魚市場ができたばかりのころ、値段をごまかした売人がいた。それを見つけた親父が怒鳴りつけるなり、2人をとっつかまえて事務所にぐいぐい引っ張ってった。いやあ、さすがトラと言われるだけあると思いました。ものすごいっけ。わたしが二代目の寅吉を継いだときは、周りから「おじいちゃんみたいに吠えたり、かみついたりしなっこ」と言われた。そんどもんで、わたしは今日から猫吉になりますって答えた。それから一度も吠えたり、かみついたことはないと言いたいが、それでも随分、友だちと喧嘩をやった。商売のことではかみついたり、かみつかれたりしたもんです。

—— お母様も漁業関係のお仕事ですか。

長谷川 うちのお袋は焼津の城之腰。今の浜通りの魚屋出身で本家はなまり節屋。見合いだと思うけん。一丁目くらいしか離れて

ない、服部の名字の魚屋はほとんど親戚づきあいだっけね、昔は。

朝早くからリヤカーを押して働いた小学校時代

—— 「サスヨ」として独立して、二代目寅吉を継ぐことになる長谷川米次（よねじ）さんが産まれたわけですね。

長谷川 大正13年7月23日。焼津の北浜通りの生まれですが、川根に行く途中の峠にお地藏さんが祀ってあってね、毎年、7月23日、24日は「お地藏さんの日」（小川地藏尊大縁日御開帳）。お地藏さんの日の生まれというのが自慢です。家内の在所も地藏峠で、お地藏さんに縁があります。上に姉2人、下に妹2人と弟1人でしたが今、生きているのは弟ばっかです。もう仕事もやめています。

—— どんな子ども時代を過ごしましたか。小さいころから家の商売を手伝っていたと聞きました。

長谷川 小学生のときは日曜日になるとたたき起こされて、南浜と北浜で鰹の河岸（かし）揚げを手伝った。親父なんか、「勉強する暇があったら家を手伝え」って言ったもんです。同級生も同じで、魚屋（＝鮮魚販売業者、水産加工業者）の子は日曜になると、リヤカーの後押しをしました。

わたしは鰹をのせたリヤカーを後押しして店に運ぶ役。4年のときに子ども自転車を買ってくれてね、学校に通いながらお正月には「おめでとう」と挨拶しながら近所の30軒ぐらいにお祝いの手ぬぐいを配って回ったですよ。受け取ったおばあさんが「米次、えらいえらい」ってお年玉くれたっけ。その手ぬぐいで作った作業着や寝間着を「手拭襦袢(てぬぐいじゅばん)」と呼んでました。焼津の魚河岸シャツの発祥です。お袋が手ぬぐい4枚を縫い合わせていたのを覚えています。

ある日、それを着た若い衆が、胸に入れたタバコ、「朝日」「暁(あかつき)」「響(ひびき)」が仕事によく落ちるというんで、お袋はポケットに蓋をつけたですよ。自慢してました。枕カバーも作ったし、親父も寝間着を作ってもらってた。背中がすり切れるってえんで、厚くしてね。シャツが古くなると、包丁さしの横に切って吊しといて、手を切ったときに包帯に使ったです。一番しまいには赤ん坊のおむつになった。せえでもって、鰹節屋の衆はわりあい、良い生地で作った魚河岸シャツを着てただが、なまり節屋とか塩鯖屋は当時、零細企業だもんで安い生地だった。

手を切ったといやア、小学校6年生のころから鰹をさばいていましたが、手袋をはめねえもんで、包丁で左の人差し指を切っちゃう。わたしは3回切ってます。小学校をあがって(=卒業して)

静岡商業学校に入りましたが、入学試験に鉄棒があって、調子にのってぐるぐる回ったら包帯が取れて傷口から血が噴き出した。包丁で切ったって言ったら、佐々木って先生が「親の仕事を手伝うとは偉い」とほめてくれて、それで合格しました。(笑)

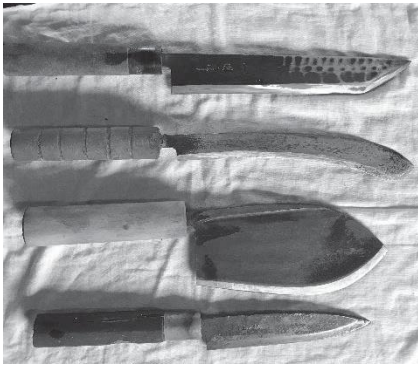
昔は手を切ると傷口に「マンザイ」の脂を塗ったものです。海にぷかぷか浮いているマンボウね、あの肝を煮て脂を取るですよ。今も、うちになかったかな。蜂蜜の瓶に入れといたのがあったと思っただけん。ものすごくくっせえが、あれは何にでも効いたねエ。うちの家内のおばあさんはね、子ども10人産んだんです。歳を取ってからは寝ダコができて、背中の骨まで見える傷になったが、お医者さんに行かない。その代わり、「まんざ」の脂を塗ったら傷がきれいに治ったと言ってましたよ。

静岡商業は3年制と5年制だったが、長いと家の商売が出来なくなっちゃうので3年制になりました。3年制は300人、5年制には1000人の生徒がいた。あまり行きたくなかったが、理科室があって、机の横に水道がついていた。喉が渴いたらいつでも水が飲めるって聞いて、学校へ行く気になりました。(笑) 商業作文、簿記、そろばん、歴史、国語、算数を勉強し、昭和15年に卒業してから家業を手伝いました。

1 日数百本をさばいたなまり節の加工

—— 焼津は魚の町として知られているだけに、当時は忙しかったでしょうね。

長谷川 今は真空パックにして出しますが、昔は切りっぱなしだから鰹の骨を取るには取るけど、片身のほうはついたままです。1日数百本切るから、とにかく素早く切る技術がいる。朝5時に朝飯食うでしょ、4人のうち2人が浜から魚買って運んでくる。待ち構えていた2人が早速切り始める。6時から始めて昼ぐらいま



「頭離し」「おろし」「相立ち」「あじきり」(上から)は今も使われている。

で切るかねエ。包丁は1本じゃアない、4本使います。かつて藤枝に2軒、包丁屋があって、こっちまで行商に来てました。まず「頭離し(かしらはなし)」といって頭を切り落とす包丁を使ってから、「おろし」で鰹を2枚におろす。次に「相立ち(あ

いだち)」で4つにして、内臓は「あじきり」でさばきます。これは出刃包丁ですが、焼津では「あじきり」と言っていました。内臓は女衆の仕事。切った胃袋を洗って塩辛にします。

ときどき、大阪、東京から仲買人が見学に来ましたが、まず最初に見るのが砥石だった。砥石を見れば丁寧な仕事をしているかどうかが分かると言われました。わたしも小学生のころ、コンクリートの防波堤の上に砂をまいて、へこんだ砥石を研いで平（たいら）にしたもんです。親父がやかましかった。大阪の人は、サスヨに行くといつも砥石が手入れされてて平だったって感心しましたよ。

とにかく手早く作業しなくちゃいけなくて、朝から立ちっぱなし。10時には昼飯が出るんです。あるとき、わたしが座って食ってたら、親父に「ばかやろう、昼飯は立って食うもんだ」って叱られたもんです。井にあったかいご飯を盛って、鰹の切り身をね、醤油につけて、こうして上にのせる。そんでもって、すった生姜をのせたら、鰹が煮えるような熱いお茶をかけるです。鰹のお茶漬けどが、たまんないうまさ、「かつーじゃ」と言ってました。午後の2時になると、今度は「およーじゃ」、2回目のお昼です。そんときのおかずはタクワンくらい。で、荷造りが始まって、発送するのが5時くらいだっけね。

「築地にサスヨのなまりあり」

—— 鰯をさばいたあとはなまり節の加工ですね。おいしく作るコツはどこにありますか。

長谷川 なまり節は、鰯を大きな釜に並べ薪をくべて20分ぐらい煮ます。それを冷ましてから木の箱に詰めるんです。当時は冷蔵庫がないから、2日ぐらいしかもたない。夏になると下から薪でいぶして乾燥させ、日持ちを良くしました。なまり節のうまさはよく煮えているかどうか。そうは言っても好みはあります。大阪や京都では生煮え気味のやわら

かい、小さい節が好まれました。形も選んで見栄えをよくしました。ところが、東京のほうは大きい節で、どっちかという、ぶっされえ(=いい加減)、よく煮えていればいい。また、秋には戻り鰯が焼津の近海でとれるが、脂がのっててうまいです。京都の秋祭にあわせて出荷しました。昭和10年ごろ、東京の築

地の魚市場が日本橋から移転して以来、わたしらんちはずっと取り引きして、今も続いています。そのころは、「築地にサスヨのな



サスヨのなまり節ポスター(昭和35年)

まりあり」って言われて、東京じゃあ有名でした。冬になると今度は塩鯖を手がけていました。頭を取らずにエラだけ抜いてさばいて塩漬けにします。こちらは京都でよく売れたですよ。

浜言葉と地域のちがひ

—— 昔の焼津では、誰もが浜言葉を話していたわけですね。

長谷川 今は「浜言葉を残す会」も会員が3人しかいないけえが、わたしの小さいころは家族全員が浜言葉だった。仕事によっても少しずつ違う。うちのお袋なんか魚屋の出身でしょ。言葉が乱暴で、自分を指して「わしゃー」とか、相手を「おまた」「おまん」とか呼んでね。うちの家内は、わたしが「黄色」を「きいない」と言うので気にいらぬ、言葉が見苦しいと言う。だから、おりゃ「らっけえ」という言葉を使うなと言ひ返した。「大きい」とか「たくさん」とかいう意味かな、よく分かんないだけんね。大井川の向こうから来た衆は「らっけえ」という言葉を使っただよね。

—— 同じ焼津のなかで地域差はありましたか。

長谷川 今の150号線を境にして山側は言葉がちがった。あっちの和菓子屋から浜通りに嫁いできた娘がいて、言葉が通じないもんで「田舎っさア」って言われて泣いただつて。わたしが小学

校4年のときには、女の先生から言葉づかいを注意されました。浜言葉は乱暴だから「君」と「ぼく」という言葉を使いなさいって。ところが、わたし、級長だったんで、「君」「ぼく」という坊ちゃん言葉を使ったら八分（＝のけ者）にするぞって同級生をおどかしていた。（笑）もっとも、小学校では同級生が55人、女が50人いて、標準語は勉強したけど、みんな浜言葉を使っていた。

小学校1年のとき、学校行く途中に清水先生という女の先生のうちがあったです。そこ通ると「はんぺん」の屑（くず）をくれるですよ。そおっとポケットに入れてくれる。それが楽しみでね、子ども9人でくっついて行ったら、あるとき上級生が焼きもちやいて、「1年の子はぶしょったい」とからかうんで行けなくなっちゃった。「ぶしょったい」は、いちゃいちゃすること、「いやらしい」って意味や「きたない」って意味にも使います。そうそう、男女が仲のいいのは「おみきどっくり（御神酒徳利＝神前に供える一対の徳利）」って言ってました。

戦争中はわたしら、徴用工として三菱の製作所で働いたが、長谷川の言葉は喧嘩しているみたいだと言われたもんです。ふだん使っている言葉だもんで、どうってこたアにゃアだね。静岡商業に入ったときも、「おまっちは『ばかばか』って使うから、焼津の子っちは乱暴でおっかない」って言われてたなあ。

人々で賑わいを見せていた焼津の浜通り

—— 寅吉さんが育った当時の焼津は、さぞかし活気に満ちていたでしょうね。

長谷川 「お天王（てんのう）さん」ときは賑やかでしたよ。浜



焼津の町を見守ってきた船玉神社

通りは船玉神社の祭。提灯を出

して、花火も上がりました。子どもの楽しみは露天の買い物。サトウキビの菓子「さとんぼう」です。1日の小遣いが1銭か5厘だったときに1本2銭でした。こんくらい、2メートルぐらいあって、長げえのなんのって、かついで買ってきて、ナタやノコギリで小さく切ってね。口に入れて噛んで甘い汁を吸うんです。味ンなくなるとペッと吐いて捨てるです。港座って映画館もあった。大森楠山って有名な弁士がいてね。戦後はひかり座、オリオン座、東海劇場。大河内伝次郎とか嵐寛寿郎ね、時代劇をやった。四谷怪談やるときはまず、お祓いしてました。歌舞伎座、昭和座だったかな、畳敷きの芝居小屋もあった。夕方になると合図の太鼓がデンコデンコ鳴って、わくわくしましたよ。子どもんときのことだが、おじいさんにね、昭和座の帰り道に狐が出るっておどかさ

れたなあ。あるとき、狐にだまされた人が肥だめを温泉と信じこんで、のんびりつかってたって。

焼津駅には貨物のホームがあって、東西になまり節を出荷していました。秋になると三陸から鰹が入荷して賑わいます。昔は焼津駅は魚くさいってよく言ったです。



昭和初期の大正町(現在の昭和通り)の映画館「港座」(『懐かしの焼津』より)

秋には台風もやってくるが、風が激しいときには波が防波堤を越えてくる。うちは海岸から 70 メートルぐらいだったから、海の水がじゃんじゃん家ん中に入ってきました。家の裏で魚

を加工するんで、下はコンクリートの通路。大きな台風がくると雨戸を全部外して、家ん中ア、波を通しちゃうんです。波が素通りしてそのまんま裏に流れてく。瓦は潮風で飛んでいったが、畳は大丈夫だったな。

お互いに助けあった人情豊かな町

—— 焼津は人情の町と聞きますが、お互いに助け合うことも多

かったでしょうね。

長谷川 昔の焼津は漁師と魚屋(=鮮魚販売業者、水産加工業者)の町でした。漁師と魚屋以外の酒屋や米屋、仕立屋、銭湯なんかは「余職(よしょく)」って言われてたです。また、赤阪鉄工所では船のエンジンを作っていた。ポンポンエンジンと呼んでいた焼玉エンジンです。船元は50軒あって、うちの町内だけでもほんの100メートルぐらいの間に鰹の船元の長屋が7軒あったですよ。漁師の衆はその長屋に家族で寝泊まりしていた。

昭和のはじめごろは漁師はわりあい貧しいっけ、困ったときはお互い様、近所の衆が「おーい、米一合、貸してくれ」なんて頼んだり頼まれたり、もっと前の時代は「えんかさん」っていう大地主の家に借りにいったです。「米がなければ えんかさんへ もらいましたよ 白い米」って歌になったぐらいだ。今も「エンカ屋敷跡」の石碑が残ってます。

わたしが数えで2歳から5歳まで、小学校出たばかりのきよちゃんって娘(こ)が子守役でした。3人姉妹の末っ子、器量がよくて子守奉公しているときに、近所の若い衆に騒がれたって。この娘はもともと静岡のおだい(=金持ち)の娘だったが、昭和恐慌で不景気になって家がつぶれちゃった。お父さんとお母さんはスペイン風邪にやられて亡くなっちゃったというので親戚に預け

られたです。

頭のいい娘で、小学校をあがったら（＝卒業したら）奉公しなくちゃいけないが、「どうしても2年制の高等科に行きたい、お昼はいらねエ」ってお願いしたそうです。そんでもって2年間、お昼になると友人にこっそり、水を飲んでたそうです。「じゃあ、米次の子守にどうだ」ということになった。1回1銭のお駄賃もらって、そのうち5厘はコツコツ貯金してたって聞きました。焼津静岡の電車賃が15銭ちっとじゃあなかったかな。雨ふりのときは、よく図書館に連れてってくれました。私も絵本が好きだったから図書館で自然と字を覚えました。小学校に上がった頃には、ひらがなは読めたし、3年生のときには「海」という漢字を見て「上海のハイです」と言ったもんだから、先生が驚いてましたよ。

きよちゃんは、わたしが静岡商業に進んだころはもう奉公は辞めていたが、昭和15年の静岡の大火で、どこに行ったかわかんなくなっちゃった。ええかげん経ってから、風の便りに所在が分かったんで会いに行ったら、きよちゃん喜んで涙流してくれました。そのあと、旦那さんの葬式にも行きました。養老院に入ってからうちの家内と見舞いに行きました。今、きよちゃんの娘さんが旦那さんと二人で税理士事務所を開いていますよ。今も年賀状のやりとりしています、はい。

インタビューを終えて

浜言葉の一覧に「イッコク」という言葉が掲載されている。焼津に限らず昔はふつうに使っていたようだが、一国しか知らぬことから転じて他人に耳を貸そうとしない頑固者という意味で使われたらしい。しかし、今の私たちが一国の言葉についてどれほど知っているかと問われれば自信がない。

浜言葉はもちろん、言葉はどうにもならない悲しみやどうしようもない怒りなどの感情を伝える。言葉を代々伝える人がいてはじめて世代を超えた豊かな会話も可能となる。豊かな会話が物語を生み、歌や演劇につながり文化が育まれる。

長谷川寅吉さんはイッコクである。一国しか知らないのではなく、魚の町焼津という一国を深く知っている。そこに生きた人々の思い出とともに生きているのだろう。昔の話をしながら、かつて生きていた人が、生活の情景が、ありありと思い出されるのだろう。ときどき遠くを見るようなまなざしが印象的であった。一国を深く知らねば他国の理解もおぼつかない。他国の人に信用されることもないだろう。イッコクは世界に通じている。

太田晴康（静岡福祉大学学長）

浜言葉を学ぼう！

浜通りと浜言葉

■焼津の浜通りについて

戦前の焼津は、カツオ遠洋漁業とカツオ節生産が盛んな水産の町でした。浜通りとは、北は焼津港、南は小川港に挟まれた約 1.5 kmほどの通りの、北から北浜通・城之腰・鰯ヶ島の3つの集落の総称です。

かつて南北には魚市場があり、北浜通はカツオ漁を中心とした大型船の船元と乗組員が多く住み、南の鰯ヶ島はどちらかというところサバ船（ぶね）を中心とした近海漁業関係者、中間の城之腰にはカツオ節やなまり節の水産加工業者や魚屋が多く住んでいました。昭和 20 年代半ばには、11,000 人超の人口でしたが、この 40 年間には約十分の一にまで減り、新港や港湾道路整備などで環境も変わりました。

■浜言葉を遺そう

浜通りに住む人々が話す浜言葉は、言葉の響きは荒いですが、温かい人情味がある「荒っぼいけえが、ぬくとい（温かい）」言葉です。明治時代の日本で、作家・教師として活躍した小泉八雲は、晩年焼津を気に入り、6 回もの夏を焼津で過ごしました。八雲は、

滞在していた山口乙吉の家から歩いてすぐの新屋（あらや）の海で、朝昼晩と水泳を楽しんだといます。この新屋の海は、八雲が焼津で最も親しんだ海であり、名作『焼津にて』はこの海での体験をもとに誕生しました。八雲は作品中で「子どものように、善良で無邪気で、物事があけっぱなしで、正直過ぎるほど正直で、後の世のことなど思いもせず、昔からあるしきたりと、昔からある神仏に忠実なのである」（『焼津にて』）と、焼津の人達を表現しています。

八雲の愛した焼津の人達が話していた浜言葉は、当時の焼津と、そこに住む人達の姿をうかがい知ることのできる、大切な郷土の宝です。



昭和10年頃、浜通り(鯛ヶ島)から無線塔を望む(『懐かしの焼津』より)

浜言葉ワンポイント講座

◆スカ （意思と否定の両方の意味に使われる）

【使い方】

遊びイカスカ……遊びに行こうか（行かないよ）

俺も一緒に行ってヤラスカ……俺も一緒に行ってやろうか（やらないよ）

（活用例：クレスカ、ヤラスカ、イカスカ、ヤメスカ）

◆ワレ （二人称。相手を「ワレ」と呼ぶ）

【使い方】

ワレ……お前 ワリヤー……貴様 アレン……あいつ

アンテー……あいつ アイラ、アリヤー、アンテヤーラ……あ

いつら ウェーラ……貴様たち ソンテー……そいつ

ソントィーラ……そいつら コンテー……こいつら

◆オ （「～を」の発音が「オ」に変化する）

【使い方】

イノオ……犬を ヒトオ……人を ウミヨオ……海を

◆イ （「え」「し」の発音が「イ」に変化する）

【使い方】

波が堤防を越イてくる……波が堤防を越えてくる

引越イてくる……引越してくる

◆リ （「じ」の発音が「リ」に変化する）

【使い方】

リシン……地震 リンリキシャ……人力車

◆ン (1) （「が」の発音が「ん」に変化する）

【使い方】

人ン居る……人が居る

（同様に、「家ンある」「海ンある」「山ンある」など）

◆ン (2) （「の」「れ」の発音が「ン」に変化する）

◆トコ （「ところ」の発音が「トコ」に変化する）

【使い方】

アントコ……あの所 コントコ……この所

ソントコ……その所 ソンダケ……それだけ

アンダケ……あれだけ コンダケ……これだけ

◆ワシ （女性の一人称）

ワシ……私 ワシャー……私は ワシラ……私たちは

浜言葉いろはかるた

い イセジタチ 今日のカザマで ニシガフク

(西方面に入道雲が出たから西風が強くなるので休漁にしよう)

ろ 老人は 紙につまづき サーラツク

(老人は紙につまづき前につんのめる)

は ハショッタ 分配 もめにもめ

(分け前が不足する分配でもめる)

に ニクマレグチ タタクアンテャー ブッサラエ

(悪口を言うあいつをぶん殴れ)

ほ ホータンカゼ イグンダ顔で すぐ判る

(おたふくかぜ いびつな顔ですぐ判る)

へ ヘノカッパ 俺にまかせよ オレンチャン

(楽なものだ 俺にまかせろ 俺さまに)

と トーフでも こちらセメンで出来た 固いヤツ

(トーフといってもコンクリートでできた四角なテトラポット)

ち チミクッタ ケツポータンに 青いあざ

(つねった お尻に青いあざ)

り リシンだ逃げろ 津浪はイッソクトビに やってくる

(地震だ逃げろ 津浪は急に素早くやってくる)

ぬ ヌカスナ 屁理屈 トーサンバイコ

(屁理屈を言うな 両手を広げて通行禁止)

る 留守番の ワシとオマンはいつも仲良く オミキドックリ

(留守番の私とあなたはいつも仲の良い二人連れ)

お(を) オトマシー こんなにウンと ネギもらい

(困ったなあ こんなに沢山ネギもらい)

わ ワリヤー ドコノドイツか 馬の骨

(貴様はどこから来た奴だ)

か カニショーと 言われてコッチも 悪いと謝った

(勘弁してくれと言われて私も悪いと謝った)

よ 四杯目 ごはんのお替り チクチート

(四杯め ごはんのお替り ほんの少々)

た ターブレル 子犬の顔は ワレに似る

(たわむれる小犬の顔はあなたに似る)

れ れんこんの 穴をイジクリ イビハメに

(れんこんの穴を指先でもてあそび 指輪に)

そ ソーシルサ オマタお先に 行ってオクー

(そうしなさい あなたお先に行ってください)

つ ズナシの ハヤナキ 泣きジョーゴ

(いばるのにすぐ泣くやつ)

ね ネブッテェー赤ん坊 母ちゃん上手に ネーラカス

(眠い赤ん坊 母は上手に眠らせる)

な ナンズラと 窓開け見れば 火事はすぐそこ ソコントコ

(何だろう 窓開け見れば火事はすぐその所)

ら ラッキュー鰹 (かつ) じゃ ションベンだ もっとエエ鰹

もってこい (やせた鰹だキャンセルだ もっといい鰹もってこい)

む 無理矢理に ヒトサライは北朝鮮に 連れて行き

(無理矢理に誘拐犯は北朝鮮に連れて行き)

う ウンバタで 煙草のんでる ウミトンボ

(海辺で煙草を吸っている世間知らずの漁師)

い (ゐ) いれんさん 焼津神社の昔の名

(入江大明神 焼津神社の昔の名称)

の ノコサッカ 焼津の方言 浜言葉

(遺しましろう 焼津の方言 浜言葉)

お おまんもわしも 同じ浴衣の 夏祭り

(あなたも 私も 同じ浴衣の夏祭り)

く クレスカと 言われて両手 出しそびれ

(あげようか (あげないよ) と言われて両手出しそびれ)

や ヤクチャーモネエ けんかの仲裁 なぐられた

(バカを見た けんかの仲裁 なぐられた)

ま マチョーヤイ このメンチャーも 連れて行け

(待ってくれ この女性も連れて行って)

マンボぬけ 次は焼津だ オリザーヤイ

(トンネルを抜け 次は焼津だ 降りましょう)

け ケブツェー この臭いは カボクサイ

(煙いなあ この臭いは火事のときの臭い)

ぶ (ふ) 不思議だなあ 我とわれの 浜言葉

(不思議だなあ おれとお前の浜言葉)

こ コイテくる 波に驚き トンデ逃げ

(堤防を越えてくる波に驚いて走って逃げ)

え エイキンで カンダイ計る 生利節

(計量器で目方を計る生利節)

て テッポーダマ 返事待つ間に 夜が明けた

(少しの用事を出掛けて中々戻らない人を待つ間に夜が明けた)

あ アタケルナ 文句あるなら 口で言え

(八つ当たりするな 文句あるなら口で言え)

さ 魚屋は 順番分配 タマクジで決め

(魚屋は順番分配 たまくじで決める)

注：たまくじ：紙切れに符号をつける魚屋のくじ引き。

き キャーダリー 小便ヒーマに してクリョー

(疲れたよ 小休止にしてください)

ゆ ユニハイリ ヌンルクタクテ 風邪を引き

(入浴し ぬるいお湯で風邪を引き)

め メッソーで 配った魚は 不公平

(目分量で配った魚は不公平)

み 道端で ミセヲヒロゲル 酔いたくれ

(道端で酔って汚物を吐き出す酔っ払い)

し シッタカブリ 深く問われて 恥をかくなり

(何でも知っているふりをする人 深く問われて恥をかくなり)

え (ゑ) ゑべっさん 今日也大漁か 鯛かかえ

(エビスさん 今日也大漁か 鯛をかかえている)

ひ ヒッチラン 顔して親の介護は 他人(ひと)まかせ

(知らん顔して親の介護は他人まかせ)

も モーケモン キャードで拾った宝

(これは儲けたぞ 表通りで拾った宝くじ)

せ セーダッテ ワシャー何にも シエーナイ

(そう言っても私は何も出来ません)

す ズルズルベッタ ン いつまでインナ ズンズンかえれ

(いつまでも長居せずさっさと帰りなさい)



昭和 26 年頃、小石川河口附近に東海ガスの
タンクがあった。(『懐かしの焼津』より)

浜言葉交通安全標語

交通事故をなくすため、浜言葉を使って交通安全標語を作りました。

- ・マメツタク（何度も見る） 安全確認 左右
- ・イセエデモ（急いでも） 信号ダキャ（信号だけは） 守ラザ
ー（守りましょう）
- ・ヤメザーヨ（やめようよ） 飲んだら ゼツテエ（ぜったい）
乗らねーぞ
- ・イセエデモ（急いでも） 安全運転左右
- ・ショロショロシンナ（のろのろするな） 右折左折のシグナル
早く
- ・お神輿も 信号守って アンエットン

注：アンエットンは焼津神社祭典における神輿渡行列の掛け声。

- ・へを ヒッタコンデの（ほんの少しのことでの） 不注意 事
故の元
- ・陽が落ちた ケチルナ（けちけちするな） 車のライト ツキ
ヨオ（つけよ）
- ・「マモリボッサン」（お守り札） 車に付けて ワシャー（わ
たしは） 何時でも 安全運転

- ・おいオマン（君） 早く イキマー（行きましょう）青信号
- ・渡るの オヨシ（やめなさい） ジッキに（すぐに）赤に ナ
ルジャンカ（なりますよ）
- ・飛び出すな 走る車はチョックラチョンと（すぐには） 止マ
レネエー（とまらない）
- ・手を上げて 我とワレ（僕と君） 一緒に横断歩道を ワタラ
ザー（渡ろうよ）
- ・手を上げて ワシとオマン（わたしとあなた）は 仲良く横断
歩道を 渡りマアー（渡りましょう）



昭和10年頃、浅草通りにあった歌舞伎座
後の浅草劇場。（『懐かしの焼津』より）

創作童話【やいづの桃太郎】 浜言葉版

コノコラー、昔の噺ヨオ シルヒター、ダンレモ居なくナッチャッターナア。

金太郎、浦島太郎、桃太郎、一寸法師、うさぎと亀、花咲じいさん、猿かに合戦、かぐや姫。

セーダモンデ、お役所でノーベル童話賞というヤツオ作るんだツチョウヤ。ソイデ オリヤー、そのノーベル童話賞をモラワスカと思って、図書館へ行って桃太郎の研究をシタダエー。ソーシルと、昔、桃太郎ン ヤエーツに居たコットン判ツタダエ。オレンイマツカラ ハネエテヤルデ、ダンマツテ聞いてイヨー。

「昔、昔、そのまた昔のその昔」エーカン、昔の事だなあ。高草のヤマンネの石脇村におじいさんとおばあさんが住んで居たツチオヤ。或る日、おじいさんは高草山へ柴刈りに、おばあさんは川へ洗濯に行きました。ソオシルト岡部の方からイケヤー桃、流れて来たもんだから、おばあさんは、洗濯物をホツタラカシにして桃を抱えて家へ帰りました。ホーチョンで桃を切ラスカとシルと、桃がパンと割れて、中から元気なガキン飛び出しました。桃から生まれたので、桃太郎と名を付けました。

桃太郎はすくすくとイカクナッタケーが、いたずら小僧でションナエツケチヨオ。

或る日、桃太郎は、「きびだんごオ、タァント作ってクリヨオヤエ」と言いました。

婆さんはナンに使うノダヤアとイナ顔をしました。

「オリヤー、イマツカラ鬼ヶ島へ、鬼退治にイカスカと思ってるさ。」

「オトマシーコト。誰と一緒にいくデガア。」

「うん、犬ときじと猿オー連れてイカスカナ。アンテェラ強エデナア。カム、ツツク、カジクッチャウデナア。鬼のテェラも降参シチャウラヨ。」

「セーダケーガ、オニヤーオツカネーデ、ゴセツボクナエノオ。ワリーコタア イワネエデ、ヨシンスルサ。」

「ナニヨー言ッてルダ。オニヨー退治スリヤー、島の衆はミーンナ ゴセツポイジャナエーカヨ。」

「セージャー ドーヤッテ島へ渡るでガー。」

「ウン、海トンボのお爺ラン、当日の浜から八丁櫓デ乗せて行ってクレルツチヨウ。鬼の宝物、タァント 分捕ってクンデナ。」

と、桃太郎は、当目の浜から勇ましく、八丁櫓に乗って鬼退治に出掛けたチョーヤ。

「それからドーナッタエー？」

「バカ、そんな事を聞く馬鹿ァアラスカ。セーダデ ワレノコトオアッタッターテユウダ。あとのコター ヒッチラスカ。セーダケーガ、犬ァー忠義、猿ァ知恵、キジャー勇氣ってことで、犬猿雉ヨ一緒に連れてイキヤー、金ン貯まるってことで。わかったか！当目の浜エー行ってジャリンバー掘ッテミオ。宝出てくるかもシンナエーゾ。」

「セーカラ、コッソリダケーガナ、オレン古文書オ調べたら、石脇村に旗掛け石てイーキエー石アルジャンカ。あの石の下エ桃太郎ン宝物、埋めたらしいんだ。石脇村ンテエーラン 掘レエ行ったケーガ、石ンイケエモンでまだ宝物ン出てコナエッチョオ。ワリヤー、オッチョコチョイのオダックイで力持ちダデ、掘レー行ってミョオー。宝物ン出たら半分俺にクリョオヨ。オレン、ノーベル童話賞をもらったら、一杯オモッテやるからさ。」

創作童話【やいづの桃太郎】標準語版

この頃は、昔の噺をするひとは、誰も居なくなりましたなあ。
金太郎、浦島太郎、桃太郎、一寸法師、うさぎと亀、花咲じいさん、猿かに合戦、かぐや姫。

それだから、お役所でノーベル童話賞という賞を作るんだそう
だ。それで俺は、童話賞をもらおうかと思って、図書館へ行って
桃太郎の研究をしたのです。そうすると、昔、桃太郎が焼津に居
た事が判ったのです。俺が今から話してあげますから、黙って聞
いていなさい。

「昔、昔、そのまた昔のその昔」相当、昔の事だなあ。高草の山
麗の石脇村に、おじいさんとおばあさんが住んで居たそうです。
或る日、おじいさんは高草山へ柴刈りに、おばあさんは川へ洗濯
に行きました。すると岡部の方から大きい桃が流れて来たものだ
からおばあさんは洗濯物を置き去りにして、桃を抱えて家へ帰り
ました。包丁で桃を切ろうとすると、桃が ぱんと割れて、中から
元気な男の子が飛び出しました。桃から生まれたので、桃太郎と
名を付けました。桃太郎はすくすくと大きくなりましたが、いた
ずら小僧で仕様が無かったそうです。

或る日、桃太郎は婆さんに、「きびだんごを沢山作ってください。」と言いました。婆さんは、何に使うのですかと変な顔をしました。

「俺は今から鬼ヶ島へ鬼退治に行こうと思ってます。」

「恐ろしい事。誰と一緒に行くのですか？」

「うん、犬ときじと猿を連れて行こうかな。あいつら強いからなあ。噛む、突く、引っ搔くで、鬼のやつらも降参するだろう。」

「それだけれど、鬼は恐しいから落ち着かないねえ。悪いことは言わないからやめなさい。」

「何を言ってるんだ。鬼を退治すれば、島の衆は皆安心するでしょう。」

「それでは、どういう方法で島へ渡るのですか。」

「うん、漁師のお爺さん達が、当目の浜から八丁櫓で乗せて行ってくれるそうだ。鬼の宝物沢山ぶんどってくるから。」

と、桃太郎は、当目の浜から勇ましく、八丁櫓に乗って鬼退治に出掛けたそうです。

「それからどういう結果になったのですか？」

「そんな事を聞く馬鹿はいないよ。それだからお前の事を大馬鹿者と言うのだ。あとの事は知らん顔だ。 だけど、犬は忠義、猿は

知恵、きじは勇気ということで、犬猿きじを一緒に連れていけば財産が出来るってこと。分かったか！当目の浜に行つて砂利浜掘つてみなよ。宝出てくるかも知れないぞ。

それから、秘密だけれど、俺が古文書を調べたら、石脇村にある旗掛け石って大きい石、あの石の下へ桃太郎が宝物、埋めたらしいんだ。石脇村の人達が掘りに行つたけれども、石が大き過ぎてまだ宝物が出こないそうさ。お前は、お調子者のお調子者で力持ちだから、掘りに行つてみな。宝物出たら半分俺に呉れよ。俺が、ノーベル童話賞をもらつたら、一杯おごつてやるからさ。」



焼津の風物詩

■ 焼津だるま

焼津市浜当目にある弘徳院は、「京都嵐山」「伊勢朝熊」と並ぶ日本三大虚空蔵尊のひとつです。奥の院で毎春行われる例大祭では、2月13日が古いダルマを納めて供養する送りダルマの日で進学・就職・厄除けの祈願の日とされています。また、2月23日は商売繁盛・家内安全・豊漁祈願の日で、新しいダルマを買い求める迎えダルマの日とされています。両日ともおおくのダルマ業者や露店で賑わいます。



特大の焼津だるま

■ 耳白半纏（みみじろばんてん）

魚屋（浜通りでは、鮮魚販売業者だけでなく水産加工業者も魚屋と呼んだ）の男は、耳白半纏という紺地の布に付いた白いミミを表にみせるように縫い合わされた半纏を着用していました。おもに、魚屋の子弟（＝使用人）の制服として、半纏の下にはシャツ、紺色のモモシキを着ていました。

紺地の布は、かなりしっかりした手織りの布で、仕立ても手縫いであり、大変丈夫なものでした。仕事中は襟に屋号が書かれた耳白の表側、仕事場以外では裏返しで着ることも出来た『リバーシブル』仕立てでした。

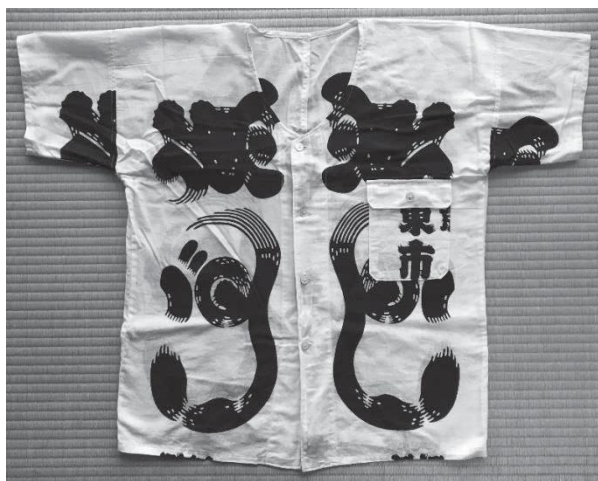


昭和 10 年頃の耳白半纏

■手拭襦袢（てぬぐいじゅばん）

魚河岸シャツのルーツであり、魚屋の夏の定番です。近年人気の『魚河岸シャツ』のもとになったのは、当時『手拭襦袢』と呼ばれていた魚屋の夏の仕事着でした。

手拭は、正月の年始まわりなどで魚屋が得意先などに配るために用意するもので、何枚もたまるので、手拭襦袢や寝間着、子どものおむつ等さまざまな方法で活用されていました。ちなみに私の母は、手拭襦袢の胸ポケットに蓋（フラップ）をつけた最初の人だそうです。工作中に煙草を落とすことがないようにと考案したのが広まって、今の魚河岸シャツにも受け継がれています。

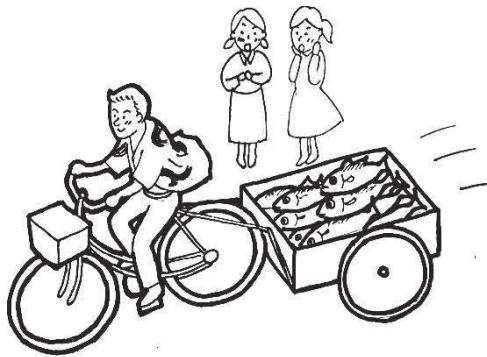


左胸にポケットのついた手ぬぐい襦袢

写真の手ぬぐい襦袢の由来についてお話ししましょう。戦後の昭和25年、生鮮食料品の統制がようやく全面的に解除され、かつて焼け野原だった築地の中央卸売市場にも活気が戻ってきました。その頃、商売を再開した「東市」（築地魚市場株式会社）より三反の手ぬぐい生地をいただきました。数年前に、それまでしまっておいた手ぬぐい生地の日焼けしていない部分を縫い合わせて仕立てたのがこのシャツです。

さて、戦前の魚屋の若者たちは手拭襦袢を粋に着こなしていました。ポイントは次の通りです。当時の情景が浮かんできませんか。

- ・ボタンは、二つ目のボタンだけはめ、あとははめません。
- ・自転車にリヤカーをつけ、河岸揚箱に鰹を山のように乗せ、シャツの裾をひるがえしながら浜通りを走りぬけます。



浜言葉用語集

ア

	浜言葉	訳	備考（用例、類語など）
1	アースル	あのようにする	
2	アーテ イヤー コー ユー	口答えをする	
3	アーヌキヅラ	①他人を見下した顔 ②仰向いた顔	
4	アーヌク	仰向く	
5	アーモッタ	ああ思った	
6	アイ	鮎	
7	アイク	歩く	[同] エヤーク
8	アイキソーダ	歩けそうだ	
9	アイキナ	歩きなさい	
10	アイケルカ	歩けるか	
11	アイサ	すき間	[例] 障子のアイサからのぞく
12	アイジャー	あれでは	
13	アイダチ	鯉を四つ割にする包丁	[漁業水産加工業用語]
14	アイタ	飽きた	
15	アイタッチャ	飽きてしまった	
16	アイマ	時々	
17	アイマチ	①あやまち ②怪我	[同] エヤーマチ
18	アイマノキョーゲン	①出来ごころ ②遊び 仕事	
19	アイヤリ	同値となったセリ	[漁業水産加工業用語] 魚のセリ売りの際、複数の仲買人から同じ値が提示されること
20	アイラ	あいつら	[同] アンテチャーラ
21	アインチ	やいやい・あれあれ	困ったときや、感心するときなどに発する
22	アエーサ	時々	

23	アエーマ	時々	
24	アカサレル	①知らされる ②教えられる	
25	アガリット	座敷のあがり口	
26	アガリパナ	座敷のあがり口	
27	アカ	赤ん坊	
28	アチャーテヤル	知らせてやる	
29	アキヤマサン	飽きやすい人	
30	アクザモクザ	悪口雑言	
31	アグタ	胸ビレ	[漁業水産加工業用語]
32	アクタレ	悪口	
33	アクツ	かかと	金谷方面ではアクトという
34	アシガハヤイ	①腐りやすい食物 ②賞味期限の短い食物	
35	アジキリ	出刃包丁	[漁業水産加工業用語]
36	アシックソ	靴についた泥	
37	アシンド	足あと	
38	アスコ	あそこ	[同] アントコ
39	アスポー	遊ぼう	
40	アスバザア	遊ぼうよ	
41	アソコーラ	あのあたり	[同] アスコーラ アノイト
42	アタ	意地悪	
43	アタースル	意地悪をする	
44	アタケル	八つ当たりで悪い態度をとる	[例] アタケルな、文句があるなら口で言いなさい
45	アッカシ マッカシ	つめの赤い蟹	黒石川の石垣の穴の中に生息していた蟹
46	アッケラ	有ったでしょう	[同] アッキラ
47	アッケラサー	明けっぴろげの人	

48	アッタズラ	有ったでしょう	
49	アッタッター	馬鹿より上のバカ	
50	アッチラ コッチラ	左右が逆	[例] アッチラコッチラ に靴を履く
51	アッパッパー	簡単な作りの婦人服	
52	アツボッタイ	暑っかしい	[例] アツボッタイ服装 をしている
53	アツラサッタ	頼まれた	
54	アツラエル	他人に頼み事をする	
55	アッチョー	あれー あら ありゃ	驚いたり不思議に思ったり 意外に感じた時の表現 [同] アンチ アン
56	アテ	病気の鯉	[同] ガンチョオ トーフ
57	アテコ	破れた衣類の補修	
58	アテズポー	無定見・確信のない	
59	アテッコ	クイズ	
60	アノイト	あのあたり	[同] アソコーラ アスコーラ
61	アバラウ	取り合う	
62	アブンナエー	危険	
63	アマークウ	①意表をつかれる ②前につんのめる	
64	アマックソ	①小雨 ②雨の降りはじめ	
65	アライオケ	水で清掃する	[漁業水産加工業用語]
66	アライバタ	川の洗濯場	黒石川に木の栈橋がいく つもあって汚物の洗濯を した
67	アラスカ	無いよ	
68	アラッカ	あるものか	
69	アリヤー	あいつ	[同] アレン
70	アリンド	蟻	

71	アルカザー	歩こう	
72	アレヨーミヨオ	あれを見よ	
73	アレン	【→】アリヤー	
74	アワイ	背負った子どもと親が 一緒に着る防寒具	
75	アンキヤー	あれほど	
76	アンダケ	あれだけ	
77	アンチ	【→】アッチョー	
78	アンデー	歩く(幼児語)	[例] アンデー上手ここ までおいで
79	アンテェヤー	あの野郎	
80	アンテヤー	あの人	[例] アンテヤー、頑固 者だよ [類] コンテヤー ソントヤー
81	アンテャーラ	【→】アイラ	
82	アントコ	【→】アスコ	
83	アントー	ありがとう(幼児語)	[同] 「メツタイ」とも 言うようだ
84	アンニョー	【→】アッチョー	
85	アンポンタン	馬鹿者	
86	アンマシ	あまり	[例] アンマシ小言を言 うな
87	アンモー	餅	

イ

	浜言葉	訳	備考(用例、類語など)
88	イーイッコ	口げんか	
89	イーノー	結納	
90	イエエン	煙の中のスス	
91	イカイ	大きい	
92	イガキ	神社の玉垣	
93	イカザー	行こう	

94	イカスカ	①行こうか ②行かないよ	スカ言葉は焼津独特の方言で反対語にも使われる
95	イカズヨ	行きましょう (主に女性)	
96	イカヅニ	行きましょう (主に女性)	
97	イカダ	錨	
98	イカッカ	行こうか	
99	イガヌケル	布、紙がボロボロになる	
100	イガム	曲る	
101	イカル	①溢水する ②洪水	
102	イグチ	いびき	
103	イクモン	行きたいよ	
104	イグム	ずんぐり、寸詰まり	
105	イグンダカオ	変な顔	
106	イゴク	動く	[活用]イゴカス(動かす)
107	イサシブン	久し振り	
108	イセーデッタ	急いで行った	
109	イセジガタツ	西方に大きな雲が出て 風が強くなる	
110	イセンマチ	漁師の代参まつり	
111	イツイッカ	何月何日	
112	イッカ	二個	天秤でかつぐ数の単位
113	イッコク	頑固者	
114	イックラ ナンデモ	問答無用	
115	イッサ	ひとまとめ	
116	イッショクタ	何でもまぜ合わす	[例]クソもミソもイッショクタにする
117	イツソガシイ	忙しい	
118	イッソク	百の単位	魚や鰹を数えるのに使った [例] 2ソク 3ソクなど

119	イッチョオモグリ	海鷗(うみう)	
120	イッテコザー	行きましよう	
121	イットイデ	行きなさい	
122	イットー	同じ姓の父方の血縁親族	
123	イッパチョコレル	親指と人差し指ではねる	
124	イッペェー	沢山	
125	イツンヅツツ	5ヶずつ	
126	イテヅラ	いたずら	
127	イト	距離	
128	イナ	変な、異様な	
129	イナコト	変な言葉、おかしい言葉	
130	イナンド	いなご	
131	イヌッコロ	小犬	
132	イノク	【→】イゴク	[活用]イノカス(動かす)
133	イバル	場所取り	
134	イビハメ	指輪	
135	イブシ	煙で乾燥させる	焔乾
136	イブル	煙で乾燥させる	
137	イマントコ	今のところ	
138	イミリ	ガラスのヒビ割れ	[同] エミリ
139	イモネー	田舎のねえちゃん	
140	イラスカ	①いらぬか ②いらぬよ	
141	イランセンショ	口出しするな	
142	イルコンダシ	居るからな	
143	イルンデ	居るから	
144	イレモン	入れ物	
145	イレンサン	焼津神社	入江大明神
146	イワスカ	①言おうか ②言わないよ	

147	インキョヤ	分家	
148	インクツ	へんくつ	
149	インナ	居るな	
150	インバル	威張る	

ウ

	浜言葉	訳	備考（用例、類語など）
151	ウカシブタ	水面に浮かせる蓋	水を運ぶ際、浮かし蓋を するところぼれにくい
152	ウゲ	川で魚を捕る道具	[類] ブツタイ コーロン
153	ウサギガトブ	風で白波が立つ	
154	ウザマシイ	素晴らしい	
155	ウシロッカー	うしろがわ	
156	ウスギタネエ	大変汚い	
157	ウズモリクサイ	①火事の臭い ②紙などの焦げる臭い きなくさい	[同] カボクサイ
158	ウソツキヤダリー	大いに疲れた	
159	ウソツコキ	うそつき	
160	ウソツサミー	大変寒い	
161	ウソバッカ	ウソばかり	
162	ウッチャラキヤートク	放っておく 自由にさ せておく	
163	ウドンコエ サラツク	厚化粧	うどん粉に顔を突っ込んだ ような、の意
164	ウマーノリカエル	選挙等で支援者を変更 する	
165	ウマンクウホド	馬の食べる程の量 沢山	
166	ウミトンボ	世間知らずの漁師	
167	ウミヤ	美味しい	
168	ウミヤカ	美味しいか	

169	ウラシヨ	あたり	[例] 鹿児島ウラシヨから来た人
170	ウラッカー	うしろがわ	
171	ウラッチョ	先端 (竹など)	
172	ウラッポー	先端 (竹など)	
173	ウロチョロシンナ	そのへんをウロウロ歩きまわるな	
174	ウワブキ	上に上品を入れ、下に次品を隠す	[漁業水産加工業用語]
175	ウワンバ	上の歯	
176	ウンコオ	大便	
177	ウンコヤ	大便所	
178	ウント	沢山	
179	ウンマー	菓子	
180	ウンミャー	大変美味しい	

エ

	浜言葉	訳	備考 (用例、類語など)
181	エアーシラアウ	からかう、あしらう	
182	エエアンバイ	良い塩梅	
183	エーカ	よいか	
184	エーカゲン	①ちょうどよい加減 ②でたらめ	
185	エーカラゲン	でたらめ	
186	エーカラモン	偽物	
187	エーカン	丁度良い	
188	エーカン	いいかげん	
189	エーカンデモナエ	悪いことだ	
190	エーキ	得意	
191	エーキビ	いい気味	
192	エーキン	計量器	
193	エーダカエー	よいのかなあ	

194	エーツケ	良かったな	
195	エーッサン	人のよすぎる人 (見下して言う言葉)	[類] オダックイ オレンチャン
196	エーデス	いません	訪問販売等では承諾と 思われるが、「結構で す」「お断わりします」
197	エーヨ	いません	
198	エートコドリ	良いとこばかり先にとる	
199	エーノシマ	会下の島 (えげのし ま) 地名 焼津市小川 港辺り	
200	エーバッカ	うらやましい	
201	エーモンニ	よいではないか	[例] そんなに仕事をし なくてもエーモンニ
202	エーワ	いらないよ	
203	エギタ	魚の頭部にある臓物	[漁業水産加工業用語]
204	エキダシ	発送	[漁業水産加工業用語]
205	エグソ	縁起	[例] エグソが悪い
206	エゴイ	未熟な果実	
207	エコヒイキ	先生が特別に可愛がる	[類] ミコをトル
208	エゼクル	いじくる	
209	エゼル	いじる	
210	エドル	なぞる	
211	エフイタ	木の荷札	
212	エボタエテル	(食事を)仕方なく無理 に食べている	
213	エボチャレカール	有難みを忘れ粗末にする	
214	エミリ	ガラスのヒビ割れ	(同)イミリ
215	エムシ	回虫	
216	ェヤーク	【→】アイク	
217	ェヤークラー	歩けるよ	

218	エヤーケルカ	歩けるか	
219	エヤンデカザー	歩いて行こう	
220	エヤンデカスカ	歩いて行こうか 歩いては行かないよ	
221	エヤンデカナエ	歩いてはいかぬ	
222	エヤンデル	歩いている	
223	エヤンデキマー	歩いて行こう《女性》	
224	エヤンデク	歩いて行く	
225	エヤンデクサ	歩いて行きなさい《女性》	
226	エヤーマチ	【→】アイマチ	
227	エラブル	偉そうな態度	
228	エラブルナ	偉そうな態度をするな	
229	エンニチコゾオ	縁日の大好きな子供	

オ

	浜言葉	訳	備考（用例、類語など）
230	オアシ	お金	
231	オイー	おいで（主に女性が使う）	
232	オイベッサン	恵比寿様	
233	オオダレ	軒下	
234	オーボッタイ	顔が腫れている感じ	
235	オーリー	同じこと	
236	オカグラ	漁師が船を陸に上げる時の道具	[同] ヨイトマケ
237	オカシクダサレ	借りっぱなし	
238	オカシクテ	馬鹿々々しくて	[例] オカシクテ、ヤラレスカ
239	オカヘアガル	漁師をやめる	陸上で暮らす人を岡者（おかもん）と言い、漁師の事をウミトンボと呼んだ
240	オカモン	陸で暮らす人	

241	オカヤク	陸上の雑用	[漁師言葉]
242	オカワ	差込み便器	
243	オキ	残り火	
244	オキツツァン	気ががい	
245	オクヤー	…をください(女性)	
246	オコッサン	神輿	
247	オコッタラシー	やりすぎ	[類] オッコー
248	オコモ	乞食	
249	オサイ	おかず	
250	オサンコチ	あんこの入ったおもち	
251	オシラカス	押す	
252	オシックラ	押し合う	
253	オジブツァン	仏壇	[類] ノオノオさん
254	オシメ	①メ飾り ②おむつ	①と②はアクセントが違う
255	オジャミ	お手玉	
256	オショーキ	お仕置き	
257	オショーシ	ほんの少し	
258	オショロサン	精霊	
259	オセール	教える	
260	オゾイ	悪い品物	
261	オダイ	金持ちの家	
262	オダックイ	お調子者	[類] オレンチャン エーッサン
263	オタツシャマイリ	お塔所詣り	
264	オタンコナス	馬鹿野郎	
265	オダヤリ	魚のセリ売りの際にいい加減な値を叫ぶ	[漁業水産加工業用語] なかなかヤリ値が出ない時にセリを進行させるためだが嫌がらせの場合もある

266	オチャト	朝一番に仏壇に供える茶	
267	オチャバンサン	小学校の小使さん	今で言う用務員さん
268	オチャンコ	お座り(幼児言葉)	
269	オチョーズ	大便	
270	オチョーズヤ	便所	
271	オチョビ	告げ口	
272	オチョンビー	告げ口ばかりする人	
273	オーツァン	大きな手長エビ	瀬戸川で採れた
274	オツカイボー	心張り棒	
275	オツカナガリ	臆病者	
276	オツクー	尻込み	
277	オツコー	面倒くさい	[同]オコッタラシー
278	オッシイ	みそ汁	
279	オッチイベンベエ	新しい着物	
280	オットコ ドッコイ	お調子者	
281	オテシオ	小皿	
282	オテンコチ	頭のでっぺん	
283	オテンノンサン	須賀神社	
284	オトガトオイ	年令の差が開いている	
285	オトッコ	末っ子	
286	オトンボ	末っ子	
287	オトマシー	恐ろしいこと	
288	オドロボーキ	竹箒	
289	オバグルマ	乳母車	
290	オブシ	背節(かつおぶし)	
291	オベツカツカイ	ご機嫌とり	
292	オボンヲマワス	祝儀を集める	
293	オマイッチ	君の家	

294	オマッチ	君の家	[同] オマッチチ
295	オマタ	お前さん(女性)	
296	オマハン	お前さん(女性)	
297	オマン	お前さん(女性)	
298	オミキドックリ	いつも仲の良い二人、 連れ	[類] テンズリアウ 新屋地区の言葉
299	オメエ	お前	
300	オメェーヤム	思いやむ	
301	オモタツツラゲ	重そうに持つ	
302	オモル	ご馳走する	
303	オヤカス	終らせる	
304	オヤク	親類	
305	オヤス	悪口を言う	
306	オヨー	やめなさい(女性)	[同] ヨシンスルサ
307	オヨージャ	三時の茶漬	
308	オランチ	俺の家	
309	オランマーシ	俺達も	(例) オランマーシ付き合 いしなければ悪いのか
310	オレンチャン	独りよがり、何でも自 分が最初に口出しをし なければ気が済まない	[類] エーッサン オダックイ
311	オロシ	鯉を二つにする包丁	[漁業水産加工業用語]
312	オンクサン	神社のお供物	オンクサンはゴダンを利 用してお供えした
313	オンゾクタイ	粗末で質が悪い 粗悪品	
314	オンドダシ	発案者	
315	オンドトリ	指揮者	
316	オンナジコン	同じ事	
317	オンバッコ	ままごと	

318	オンブイヒモ	背負いひも	
319	オンブウ	背負う	
320	オンブサル	背負される	
321	オンモイ	重い	

カ

	浜言葉	訳	備考（用例、類語など）
322	…カー	…側	浜通りの人はよく使います [例] アッチカー コッチカー 海カー 川カー 上カー 下カー 前カー うしろカー
323	…カシン	…かなあ	
324	…ン	【→】 …ン	[例] 海ん、山ん、川ん ある
325	カーカーシー	いやしい	
326	カーキノヤマイ	空腹でガツガツする	
327	ガータリカール	大きいばかりでかさばる	
328	ガータリカアッテ	收拾がつかず 投げてしまふ	
329	カーチ	かわり	[例] そのカーチ (そのかわり)
330	カード	メンコ	
331	ガート ダナ	たいへん	
332	ガーナル	怒鳴る	
333	カーバル	乾燥しすぎ	[類] ヒカラビル
334	カーポータル	水すまし(昆虫)	
335	ガーラン	からっぽ、ガラン洞	
336	カーリバンコ	交代する	
337	カーンルイ	軽い	
338	カイダリー	①疲れた、だるい ②古い	[同] カンダルイ キヤーダリー

339	カイドオ	表通り、玄関	〔同〕 キャードオ 〔例〕 セドから入らずカイドオから入れよ
340	カエッサー	裏返し	
341	カガヌケル	香りが無くなる	
342	カグ	かご	
343	カクイテル	隠している	
344	カクシヘンブ	見えない所に名前を書く（衣類など）	盗まれた時の証明になり 軍隊では多用した
345	ガケッパタ	崖のふち	
346	カゲンボチ	日影	
347	カザッポイ	風邪気味	
348	カザマ	西風が強く漁を休む	（鯖船に使った）
349	カシアゲ	市場から工場まで魚を運ぶ	〔漁業水産加工業用語〕
350	カシアゲバコ	魚を入れる箱	〔漁業水産加工業用語〕 （昔はカゴだった）
351	カジクル	掻きむしる	
352	ガシャガシャ	くつわむし（昆虫）	
353	カショー	貸して	
354	カジョーヒク	風邪を引く	
355	カシラハナシ	魚の頭を切る包丁	〔漁業水産加工業用語〕
356	カゼン	急に	
357	カタグ	傾く	
358	カタクマ	肩車	
359	カタハンペラ	片一方	
360	カタビッコ	不揃い	
361	カタッポ	片方	
362	カツージャ	かつお茶漬	
363	カツギモノ	魚加工の作業衣	
364	カツギモン	作業着	

365	ガッキリ	丁度	
366	カッサラウ	ひったくり	
367	カッタイブナ	紫色をしたフナ	黒石川に居た食べられない魚
368	カッタッポ	片方	
369	ガッタリダ	全くだめだ	
370	カッテニ シッコヨオ ヨオ	勝手にしやがれ	
371	・ガツラ	～ながら	[例] やりがつら くれ がつら いきがつら
372	カツンボウ	かつぎ棒	
373	カツンボウデ アタマ ヲ ブッサラーレル	予想外の事で非常に驚く	
374	カニ スル	勘弁してやる	
375	カニシテクレ	勘弁してくれ	
376	カニショオ	勘弁してほしい	
377	カニョートル	蟹を捕える	
378	カブトヤ	生利屋	[漁業水産加工業用語] 女節を二つ 並べると兜 に見えるためそうなった
379	カボクサイ	【→】ウズモリクサイ	
380	ガマ	打上花火の殻	
381	カマ	胸鰭 (むなびれ)	[漁業水産加工業用語]
382	カマースカ	問答無用	
383	カマーネエ	問答無用	
384	カマウ	いじめる	
385	カマーラレル	いじめられる	
386	カマカゼ	不意に切傷ができる (原因不明)	気圧の関係と思われる
387	カマケテ	兼ねて	
388	カマブク	かまぼこ	
389	カミーサン	美容院	
390	カムル	かぶる	[例] 帽子をカムル

391	カメ	①亀 ②瓶	亀のアクセントは瓶と同じアクセント
392	カメノコ	おぶった子の着る袖のない防寒着	
393	カヤッサ	裏返し	
394	ガライ	うっかり	
395	カワムコオ	話を大げさにする	住吉川尻の人は話が大きかったのでそう言った
396	カンカラカン	空缶	
397	カンカラブタイ	終戦後多勢の人が豊橋方面からカンカラカンを持って鯖の買出しに来た	
398	カンジカナル	冷たくて手が凍える	[同] チンジカナル
399	ガンチョオ	身がぐによぐによになっている病気の鰹	[漁業水産加工業用語] [同] トーフ アテ
400	カンダイ	目方	
401	カンダイヤ	京大阪へ出荷する生利屋	昔は京大阪の魚市場の事を言った
402	カンダルイ	【→】 カイダリー	
403	カンブクロ	紙袋	
404	カンベンヲカ Ril	お智恵拝借	
405	ガンマメ	そらまめ	

キ

	浜言葉	訳	備考（用例、類語など）
406	キーツイ	①非常に強い ②強情	
407	キーツク	①かなり強く ②しつかりと	
408	キーット	たしかに	
409	キーキー	スチロール	
410	キーキー	赤ん坊の首筋に伸ばした毛	転んでも怪我をしないマジナイ

411	キーター	きざな男	
412	キイトダゾ	約束をする	
413	キーナイ	黄色い	
414	キズヤマイ	キズがなかなか治らない人	
415	キゼワシナイ	落ち着かない	[同] ゴセツポクナイ
416	ギソーハル	見栄をはる	
417	キタキリスズメ	一枚きりの着物	
418	キタツキ	来た	
419	キタツキラ	来たでしょう	
420	キタツケカ	来たか	
421	キツイ	ひどい	
422	キツカリ、ガツキリ	丁度	
423	キツク	①強く ②しっかりと	
424	キッサリ、キサキサ	お金の使い方がきれい な人	
425	ギッチョマン	左利きの子供	
426	キテゴオ	来てごらん(女性)	
427	キテミョオ	来い [命令] (男性)	
428	キビンワルイ	気味が悪い	
429	キモン	着物	
430	キヤー	具	
431	キヤーダリー	【→】 カイダリー	
432	キヤードオ	【→】 カイドオ	
433	キヤードオシメル	表戸を閉める	
434	キョーラノモン	最近の人達	
435	キヤーロ	蛙	
436	キヤーロッパ	どくだみ	
437	ギョーブ	屏風	

438	キョービ	此の頃	
439	キョーミ	此の頃	
440	キントト	金魚	
441	キンノオ	昨日	

ク

	浜言葉	訳	備考（用例、類語など）
442	クスグ	刺す	[同] クスゲル
443	グズクル	ぐずる、不機嫌	
444	クスゲル	【→】 クスグ	
445	クズケル	①崖くずれ ②こわれる	
446	クスビ	ホクロ	[同] クスベ
447	クセンナル	くせになる	
448	クソーミソー	ひどく非難される	クソーミソーに言われる
449	クソカキボー	手を洗わずヒビだらけの汚い子供の手	
450	クソックイ	クシロ（魚名）	[漁業水産加工業用語]
451	クソッタラシー	にくらしい	
452	クソッピレ	尾鰭	[漁業水産加工業用語]
453	クソミン	何もかも一緒	
454	クソンバイ	いつも人の尻についている人	
455	クダキツネ	占いに出てくるキツネ	味噌が好きらしい
456	クチバタ	口びる、口のまわり	
457	クチベタ	口びる、口のまわり	
458	クチャーキク	口を聞く、話をする	
459	クチャーハサム	他人の話に割り込む	
460	クッカー	食事を食べさせてもらう	自分で食べる事が出来ないため
461	クッシュン	帽子を目深にかぶる	アミダの反対
462	クビネッコー	首すじ	

463	クベル	燃やす	
464	クマケル	崩れる	
465	グラス	足首の捻挫	
466	クラセル	なぐる	
467	クラボット	暗いなあ	
468	・・クリョー	下さい	
469	クレスカ	くれようか くれないう	
470	クレッカ	くれようか くれないう	
471	クレッコ	くれ合う	
472	クンナイ	くれない	
473	クンニャート	くれないと	[例] 病気が良くなってクンニャートと困る
474	クルウ	遊びたわむれる	
475	・・クルサ	・・をしておいで	
476	クロ	道端	[同] スマッコ スミッコ
477	クロンボウ	黒いハゼに似た魚	瀬戸川で釣れた
478	クンダ	崩れた	
479	クンダリ	遠い所	[例] 藤枝クンダリ
480	クンライ	暗い	
481	クンロイ	黒い	

ケ

	浜言葉	訳	備考 (用例、類語など)
482	ケーモ	さといも	
483	ゲー	おう吐	
484	ケシコム	消しゴム	
485	ケシツボ	火消しつぼ	
486	ゲターアズケル	一任する	
487	ゲタマツリ	熊野神社のお祭り	祭りが6月で雨が多く下駄を履いた

488	ケッコー	きれい	
489	ケツノアナヲホジクル	他人の小さなアラを探す	
490	ケツポータン	お尻	
491	ケツヲツツク	おだてる	
492	ケツン アイタ	障子を閉める時片側が開いてしまった状態	
493	ケブ	けむり	[同] ケム
494	ケブツタイ	けむい	
495	ケヤス	消す	
496	ケヤーチャッタ	消してしまった	
497	ケンケン	三重県の小型の引縄船	5月頃小川港に来る
498	ゲンジキ	ゴキブリ	
499	ケンツク	①どなる ②ひじ鉄	[同] ケンツ [例] お爺さんはすぐケンツをくれる
500	ケンビキ	肩が張り歯茎がはれる	

コ

	浜言葉	訳	備考 (用例、類語など)
501	コイテクル	①浪が堤防を越してくる ②引越しをしてくる	
502	コイデ	これで	
503	コイジャー	これでは	
504	コイラ	こいつら	
505	コーコー	たくわん	
506	コーサ	テスト	
507	コージ	露路	南番小路、二文小路、小便小路等
508	コージコグラ	あちこちの露路	
509	コーシザー	こうしよう	
510	コーシヤク	批判して文句を言う	

511	ゴーチョコ	①大きい ②豪華すぎる	
512	コーデ	手首、手の甲の痛み	手の使い過ぎ 腱鞘炎
513	ゴーナイ	川エナ（貝）	ホタルの餌
514	コーモッタ	こう思った	
515	コーモリチョッチョ	ネズミ蝙蝠	
516	コーヤノアサッテ	注文の品が間に合わず 日一日とのぼす	
517	コーロン	川で魚を捕る道具	[類]ブツタイ ウゲ
518	コキタックソガワルイ	気が悪い	
519	コギル	値切る	
520	コグサラボツタイ	暗ぼったい	
521	コグラ	コムラ返り	
522	コケワタ	塩辛を造る時に出る胃 袋の内容物	[漁業水産加工業用語]
523	ココーラ	このあたり	
524	ココノヅツ	9ヶずつ	
525	ココントコ	この頃、最近	この場所という意味もある
526	コサイル	作る	
527	コサエル	作る	
528	コジッカリ	しっかりせよ	
529	コシドケ	米をとぐ桶	
530	コシノホネヲオル	ヤル気を無くせる	
531	コジャラクセエ	なまいきな奴だ	
532	コスカ	来ないよ	
533	コズム	水の底にたまる	
534	ゴセツポイ	安心する、せいせいする	
535	ゴセツポクナイ	落ち着かない	[同] キゼワシナイ
536	ゴゼン	御飯	

537	ゴゾオラン	小僧達が	
538	コソクリ	修繕	
539	コソグル	くすぐる、もそくる	
540	ゴダン	神社のお供物のお下り	[類] オンクサン
541	ゴチョン	将棋の歩駒5個使う賭け事	昔は盛んだった
542	コツイ	小さい	
543	コックリサン	占い	
544	ゴッタハチミソ	一緒くた	
545	ゴットンヒッチン	大混雑	[例] ゴットンヒッチン 押されて泣くなど唄った
546	コナイダ	先日	
547	コバ	道の隅	
548	コバカラ	片端しから	
549	コハンニチ	一日中	
550	コヒトラ	自分達	[例] コヒトラを馬鹿にしあがって
551	ゴブコーセン	五分口銭	昔、新屋の魚市場、新川橋の所にあった立ち喰いずし
552	コブショッタイ	いかにも見すばらしい	
553	コマシャグレテル	早熟 おませな	
554	ゴマンクソ	物凄く多い	馬ン喰うほど
555	コミヤラレル	出し抜かれる	
556	ゴミョーダス	ゴミを出す	
557	ゴムカン	ゴム鉄砲	
558	コリヤー	これは	[同] コレン
559	ゴリンダマ	ヒボ玉	ヒボ玉、赤い小さなアメ玉が付いて値段は5厘(1円の200分の1)だった

560	コレーサラ	これも一緒に	
561	コレサーラ	みんな全部	
562	コレバカ	このくらい	[類] コンカイ コンキヤー
563	コレバツカ	こんなに少し	
564	コレバツカシ	少ししか	
565	コレョークリョオ	これをください	物をもらう時、買う時に使う
566	ゴロチョッ	みみずく	エンカの松に居て夜泣いた
567	コン	事	[例] コンナコン、こんな事
568	コンカイ	【→】コレバカ	
569	ゴンガツイモ	じゃがいも	
570	コンキヤー	【→】コレバカ	
571	ゴンシカ	甚平衛サメ	
572	コンジキ	乞食	
573	コンジョカガル	かがむ	[類] ションジョカナル = シャガム
574	コンダァ	今度は	
575	コンダケ	これだけ	
576	コンダメ	この次	
577	..コンデ	事で	[例] そんなコンデ
578	コンテェラ	こいつら	
579	コンテャー	こいつの人柄	[類] アンテャー ソンテャー
580	コントコ イーバツタ	場所の先取り	
581	コントコ	ここ	
582	コンナ	来るな	
583	コンナェー	こんなに	
584	コンナェーフー	この様に	
585	コンナリ	このまま	

サ

	浜言葉	訳	備考（用例、類語など）
586	…ザー	やらザー、遊ばザー	
587	サーケ	水のしぶき	[例] 風で波のしぶきがとんでくる
588	サーッテイヤーサー	気の早い人、泡食い	
589	サーラツク	①前につんのめる ②よつんばい	
590	…ザーヤイ	しまししょう	[例] ヤラザーヤイ イカザーヤイ シザーヤイ クワザーヤイ
591	サイハイ	①采配をふるう ②威張る	
592	サイバチ	おかず入れ	漁師の桶作りの弁当箱
593	サイハナ	一番最初	[例] サイハナのセリ値
594	サイホーマキ	裁縫箱をひっくり返した様に散らける まき散らす	魚市場で魚を散らした時などに使う
595	ザエーゴ	①片田舎 ②実家	
596	ザエーゴッサー	①若輩者や世間知らずの人を馬鹿にした言葉 ②田舎者	「ザエーゴッサーのくせに文句を言うな」昔の人は寄合の席上平気で他人にこの言葉を浴びせた
597	サエーサエー	①再三 ②時々	
598	ザエーショ	①嫁の実家、里 ②生家	
599	サエーヅチ	氷を砕く槌	
600	サカサダル	鮮魚樽	[漁業水産加工業用語]
601	サカヅキ	アテ、魚の古傷	
602	サカナヤ	魚屋	浜通りでは鮮魚販売だけでなく水産加工業もサカナヤと呼んだ

603	サキツチヨ	先端など（竹など）	
604	サキツポ	先端など（竹など）	
605	サキヤリ	①一番ヤリ ②先発	
606	ササホーサ	①散らかして目茶苦茶にする ②散々な	
607	サシミノツマ	①話題のつなぎ ②役にたたないもの	
608	サソク	機転	
609	サナエーサー	①尚更 ②それでもなくとも	
610	サナエサエ	それでもなくとも	
611	サトンボー	砂糖きび	
612	サバク	やぶる	[例] 障子をサバク
613	サバデモクッテイヤーガレ	安い物を食べている	昔は鯖は安く浜通りの人は買ってまで食べなかった
614	サバーヨム	数をごまかす	
615	サビイ	寒い	[同] サミイ
616	サブイ	寒い	
617	サビトリガミ	サンドペーパー	
618	サブシイ	淋しい	
619	ザマーミヨー	ざまあみろ、それみろ	
620	ザラッポイ	表面がザラザラしている	
621	サレヤーコム	ほおりこむ	
622	サンジャク	鯨尺で三尺ほどの、短い簡単な帯 へこおび	
623	サンジュツ	算数 数学	
624	サンダス	差し出す	
625	サンブイ	強い寒さ	

シ

	浜言葉	訳	備考（用例、類語など）
626	シーコー	小便	
627	シーナクレル	しおれる	
628	シエーナエ	出来ない	
629	シガサッテ	明後日の次の日	
630	ジグルウ	あばれる	
631	ジグルッチャッタ	赤ん坊が痛いと言き苦しんでいる	
632	シコー	手工、工作	
633	…シザー	しよう	[例] アーシザー コーシザー ソーシザー
634	シザイボー	自在棒	カツン棒の両側に自在カギが付いていて水揚げや生利を両方に付けて運んだ
635	シスカ	①しようか ②しないよ	
636	シゾーカ	静岡	
637	シタコ	支度	
638	シタコーシル	支度をする	
639	シタッタカ	沢山	
640	シタベラ	舌	
641	シタンバ	下の歯	
642	ジッキ	すぐに じきに	
643	シックソ	パンツについて大便	
644	シッコ	①互いに ②双方が同じことをしあう	[同] ヤリッコ クレッコ
645	シッコシ	足腰	[例] シッコシも立たないのにエラブルナ
646	ジッタンバタン	遊具、シーソー	
647	シッパナシ	後始末をしない	

648	シツポ	尾鰭	[漁業水産加工業用語]
649	シトル	湿る	
650	シトヲウツ	餅付きの時の差し水	
651	シナベル	片付ける	
652	シマツトク	片づけておく	
653	シム	死ぬ	
654	シメリボッタイ	生乾き	
655	シモオキ	三陸沖の漁場	[漁業水産加工業用語]
656	シャーガレゴエ	かすれた声	
657	シャーコク	平気	
658	シャーコイテル	平気な顔をしている	
659	シャーシャーシー	平気な顔をしている	
660	シャーシャー	下痢	
661	シャツラ	顔	
662	シャツツラニクイ	すごくにくたらしい	
663	シャテー	弟	
664	ジャミ	小さな鯉、鯖	[漁業水産加工業用語]
665	ジャリンバ	砂利の浜辺	
666	..ジャン	しよう	そうジャンカ
667	シャンカー犬	家の前で吠えているばかりの臆病な犬	[類] ツナシのハヤナキ
668	ジュンサン	お巡りさん	
669	ジュンルイ	ぬかるみ	
670	ショイコム	背負う	[例] 他人の借金をショイコム
671	..ショー		[例] 見ショー (見せる) 貸ショー (貸せる)
672	ショーラ	あちら、こちら	全国津々浦々
673	ショオガナクナル	布などが古くなり弾力がなくなる	[類] イガヌケル

674	ジョオキポンプ	蒸気機関を動力源とするポンプ 特に、明治・大正時代に用いられた消防用のポンプ	昔のジョーキポンプは、ボイラーの力で水を出した。火事の際は消防の人達が大勢で引張り、石炭をくべ煙突から火の粉を出しながら走った。水勢は強く、1~2回出動を目撃したこともあった
675	ジョーリ	草履	
676	ショーヲヌク	祈祷により仏の霊を取り去る	
677	ジョーンダ	上手だ	
678	ショジメリボツタイ	じめじめとしめる	
679	ショジメル	湿る	
680	ショツキ	入口	
681	ショボタクレル	落ち込む	[例] 目がショボタクれている
682	ショロショロ	のろのろ 遅い動作	
683	ショロショロシンナ	のろのろするな	
684	ジョンジョー	草履	
685	ジョンジョカナル	しゃがむ	[類] コンジョカガル (かがむ)
686	ジョンナイ	①駄目だ ②仕方が無い	
687	ジョンナリ	身格好	[例] ションナリー悪い (みすばらしい)
688	ジョンバイ	塩からい	
689	ジョンバラクサイ	小便臭い	
690	ジョンベンガシ	祝日に小学校でくれた菊模様の干菓子 (ゴダン)	学校に汲み取りに来た農家の人がおいて行ったお金で菓子屋に作らせたので小便菓子といった
691	ジョンベンタレ	馬鹿野郎、くそつたれ	
692	ジョンベンヒーマ	小休止	

693	ションベンヤ	小便所	
694	ションベンヲスル	キャンセルをする	
695	シラ	船を陸揚げする時に下に敷く板棒	[漁業水産加工業用語]
696	シラスカ	①知らないか ②知らないよ	
697	シラックラ	のらりくらり信用の無い人	
698	シリアガリ	鉄棒の逆上がり	
699	シリッパネ	①泥のはね ②魚のセリ値が終りの方が高くなる	※②は [漁業水産加工業用語]
700	シリヲモツテイク	責任をとらせる	
701	..シル	する	[例] そうシルサ
702	..シルナ	するな	[同] ..シンナ
703	シロッコ	尻に綿の様な白い物が付いたブヨ	シロッコが出ると雨になる
704	シロバシッコイ	白っぽい	
705	..ジン	そうだよ	[例] そうだジン
706	ジンジバショリ	尻からげ	
707	シンショウ	財産	
708	シンショウモチ	財産家	
709	シンショウタシ	家を新たな世代に継承させること	
710	シンナ	【→】 ..シルナ	
711	シンナイ	知らない	
712	シンネコ	親密な関係	[例] あんたら、シンネコだもんでうらやましい
713	シンビリ	しびれ	
714	シンブンガミ	新聞紙	
715	シンロイ	白い	

716	7月18日	三浦三崎の祭りの日	[漁業水産加工業用語] 三崎の生利屋は休むので、東京行は18日は大多忙 1,200個出荷されてしまう事もあった
-----	-------	-----------	--

ス

	浜言葉	訳	備考 (用例、類語など)
717	スイホロ	風呂桶	
718	スイゾーガン	鯉の腓臓	[漁業水産加工業用語]
719	・・スカ	肯定と否定を兼ねる便利な焼津の方言	[例] イカスカ、クレスカ、ヤラスカ、ヤメスカ、行こうか、行かないよ等
720	スエル	①腐敗 ②腐って酸っぱくなる	
721	スクモ	もみがら	
722	スグル	選別	[例] 魚の大小をスグル
723	スケーテェーダ	悪賢い奴だ	
724	ズダイ	①まるで ②少しも	
725	ズデーコーデー	まるつきり	
726	ズダェーナモンダ	大した事でない	
727	ズナイ	強い	
728	スビル	はれものが治る、腫れがひく	
729	スベクル	すべる	
730	スベッタ コロンダ	色々な意見	
731	スベリッポイ	すべりやすい	
732	スマッコ	隅スミ	[類] 道のクロ
733	スミツチョ	隅スミ	[類] 道のクロ
734	・・ズラ	でしょう だろう	焼津ではズラよりダラを多く使う
735	スリコンボー	①すりこぎ ②すりむき傷	

736	ズルズルベッタン	そのままいつまでも	
737	ズンズン	早く	
738	スンデニ	もう少しで	
739	ズンルイ	ずるい	

セ

	浜言葉	訳	備考（用例、類語など）
740	セーエー	そう言いなさい	
741	セージャー	それでは	[例] セージャー帰るよ
742	セーダケーガ	そうだけれども	[同] ヘーダケーガ（セとへともに使う）
743	セーダッテモ	そうだけれども	[同] ヘーダッテモ（セとへともに使う）
744	セーダモンデ	そうだから	[同] ヘーダモンデ（セとへともに使う）
745	セーバシ	①菜箸 ②取り箸	
746	セーッチャーワリー ケーガ	申し訳ないけれど	
747	セーッテコイ	そう言ってこい	
748	セーハツツァン	新しいものの好きの人	
749	セーユー	そう言う	
750	セーンマイ	せまい	
751	セガワ	背鰭	[漁業水産加工業用語]
752	セガワツキ	鰹の背ビレを取る包丁	[漁業水産加工業用語]
753	セキタンバコ	りんごを送る木箱	
754	セキドオ	防波堤	防波堤が出来る以前の明治期、蛇籠に石を入れて積んだ石道と防波堤を混同したと思われる
755	セキノヤマ	当り前の事、限界	
756	セズヨォガナイ	どうしようもない	
757	セセクル	いじる	
758	セチガル	ねだる	

759	セチナゲ	へドロ	黒石川のへドロでこれは私の家の近所で10数件使っているだけらしい
760	セッキ	冬	
761	セッキセンバン	年末の忙しい時	
762	セックリ	しゃっくり	
763	セッチンウマレ	出入り口の戸を閉め忘れる人	
764	セド	裏口	
765	セドヤ	物置	[同] モノオケ
766	セナイ	しない	
767	ゼニョークリョー	お金をください	
768	ゼニツカイ	道楽物	
769	ゼニックピ	襟が首すじに折れこんでいる	語源は不明だが、昔は襟に銭を縫い込んでいたのかも知れない
770	セバイ	せまい	
771	セバラッタイ	せまい	
772	セマラッタイ	せまい	
773	センコロ	先日	
774	センシュジュバン	ランニングシャツ	
775	センダクモン	洗濯物	
776	センダッテ	先日	
777	セントヤ	銭湯	
778	ゼンノツケーカタ	お金の使い方	
779	センボウ	栓	

ソ

	浜言葉	訳	備考（用例、類語など）
780	ソイデ	ソレデ	
781	ソイジャー	それでは	
782	ソイラ	そいつら	[類] アイラ、コイラ

783	ソコントコ	そのところ	
784	ソコーラ	そのあたり	
785	ソックラ	①全部 ②大変良く似ている そっくり	〔例〕 ソックラやる (全部くれてやる)
786	ソーズラ	そうでしょう	
787	ソーシザー	そうしよう	
788	ソーシマー	そうしましよう (女性)	
789	ゾージ	旅行後の慰労会	「雑事」が由来
790	ソージャンカ	そうでしょう	
791	ソージョーヤル	掃除をする	
792	ソーシルト	そうすると	
793	ソーダジン	そうだよ	〔同〕 ソーダゼ ソーダモン
794	ソーダチョオ	そうだそうだ	〔同〕 ソーダッキデー
795	ソーダッチョオ	そうだそうで	
796	ソーモッタ	そう思った	
797	ソーヤッタラ	そうしたら	
798	ソーヤル	そーする	
799	ソーリョー	家を継ぐ長男	
800	ソッチノケ	除外する	
801	ソノイト	そのうちに	
802	ソノタンビ	その都度	〔類〕 バンタビ
803	ソバエーカール	いい気になってふざける	
804	ソバエーカールナ	増長するな	
805	ソビクレル	それらを誇張する	
806	ソラッカシ	そんなに少いの	
807	ソラツツカイ	そらを平気で使うひと	
808	ソリヤー	そいつ	
809	ソリヤーソーサ	当り前だ	
810	ソリヤーソオート	それだけど	〔同〕 セーダケーガ

811	ソレバッカ	そのくらいのこと	
812	ソレン	そいつ	
813	ソレミヨー	それみろ	[同] ホレミヨー
814	ソンキヤー	それほど	
815	ソクライ	そのくらい	
816	ゾングリスル	①冷やっとする 驚く ②ぞくぞくする	
817	ゾンザイ	粗雑ででたらめ	
818	ゾンザェーカーテル	①でたらめにも程がある ②天狗になる	
819	ソ نداケ	あれだけ	
820	ソ نداデ	それだから	
821	ソ ンダラ	そうしたら	
822	ソ ンテェラ	こいつら	
823	ソ ンテヤー	そいつの人柄	[類] アンテヤー コンテヤー
824	ソ ントコ	【→】 ソコントコ	
825	ソ ンナリ	その儘	
826	ソ ンナコンデ	そんな事で	

タ

	浜言葉	訳	備考 (用例、類語など)
827	ダイタ	出した	
828	ダイテテ	出しておいて	
829	ダイトク	出しておく	
830	ター	たるみ	
831	ターアント	沢山	
832	ターシル	はれものから出る膿	
833	ターブレル	(犬や猫が)たわむれる	
834	タイガイ	大体	

835	ダイジモンジ	大切にする	
836	タイショオ	彼 あいつ	[同] ヤッコサン
837	タカガミサン	神棚	
838	タキヤー	竹は	
839	タグリツク	抱きつく すがりつく	
840	タタキ	コンクリート工場の床	
841	タタンドク	たたんでおく	着物などに使う言葉
842	タタンドイテ	たたんでおいて	
843	タチオケ	水を入れて、煮籠に四つ切りの鰹を並べる	[漁業水産加工業用語]
844	タッタコレバッカ	こんなに少ないの	【→】 コレバッカ
845	・ダッチョオ	・そうだ	[例] ソーダッチョオ
846	ダデ	①そうだよ ②だから	
847	タテル	戸を閉める	
848	タドン	練炭	
849	ダバーケル	ふざける	
850	タビグツ	地下足袋	
851	タビハタシ	足袋のまんま歩く	
852	タマクジ	小さな紙に書いてクジ引する	
853	ダマクラカス	だます	
854	タマゴニメハナ	色白の美人	
855	タマリッコ	水たまり	
856	タマンナイ	とても	
857	ダメヲトル	無駄をとる	
858	タヤァーネェー	①他愛ない 簡単に ②ばかばかしい	
859	ダラケル	なまける	
860	・ダラ	でしょう だろう	焼津は語尾にズラよりダラを使う

861	タンキリ	タンキリ飴、サイコロの様に切ったサシミ	
862	ダンダン	石段	
863	ダンチ	大きな差	
864	ダンテ	だから	ソーダンテ
865	ダンレモ	誰も	

チ

	浜言葉	訳	備考 (用例、類語など)
866	チアカ	血跡のこびりついたもの	
867	…チー	親しみを込めて名前につけて呼んだ	[例] コーチー(幸一) ユーチー(雄一) ショオチー(正一) ハンチー(半一)
868	チーット	少し	
869	チーットバカ	少しばかり	
870	チーットラッツ	少しずつ	
871	チークナイ	小さい	[同] チンビクタイ
872	チクチイート	ほんの少し	
873	チソ	紫蘇の葉	
874	チッター	少しは	
875	チッチイ	乳房	
876	チマチマ	①手早く ②小さい	
877	チミクル	つねる	[同] つめくる
878	チャンコ	赤ん坊のお座り	
879	チャンチャン	船底のサビや貝殻を取る	
880	チョイ チョイ	ジャンケン	
881	チョーズヤ	便所	
882	チョーズヤサン	便所の汲取りに来る人	昔は農家の人だった
883	チョーラカス	からかう	

884	チョーズガミサン	便所の神様	藤枝の清水山で配布、便所に張り正月には餅を供える罰を当てる恐い神様だそうだ
885	チョックラ	少し	
886	チョックラギ	普段着のなかで着る綺麗なもの	
887	チョットギ	普段着のなかで着る綺麗なもの	
888	チョックラチョン	簡単に	
889	チョツチョツ	蝶々	
890	チョビチョビ	①余計な口出し ②告げ口	
891	チョロカー	ヒ弱でどうしようもない人	
892	チョンボカンボ	まばらに	
893	チョンロイ	弱いやつ	
894	チョンロクタイ	弱いやつ	
895	チンガリ マンガリ	人の前を叩く	
896	チンジカナル	【→】 カンジカナル	
897	チンチクリン	小さい人	
898	チンチラゲ	ちぢれ毛	
899	チンチン	片足とび	
900	チンチンゴメ	①めだか ②若輩者	
901	チンビクタイ	【→】 チークナイ	
902	チンブリカク	すねて不平を言う	[同] ブソクル
903	チンブンカンブン	何の事だか意味が全然分からない	

ツ

	浜言葉	訳	備考（用例、類語など）
904	ツーセンボオ	しらすうなぎ	
905	ツカイタミ	働きすぎて身体のあちこちが痛む	

906	ツカマス	捕える	[同] ツラマス
907	ツキアタリ バッター	計画性の無い人	[同] イキアタリバッタリ
908	ツキヨノカニ	話に中身がない、くだらない話ばかりする	
909	ツッカラカス	押したおす	
910	ツッコロガシ	不精だわし	
911	ツツカイボー	心張り棒、支え棒	
912	ツツッポー	筒袖の着物	
913	ツツンボー	竹筒	
914	ヅナイ	強い	[同] ツンヨイ
915	ヅナシのハヤナキ	威張るがすぐ泣き出す	[類] シャンカー犬
916	ツブラ	魚の一山、浜市場で鰹50本をツブラと呼んだ	[漁業水産加工業用語]
917	ツブル	目をつむる	
918	ツママワリ	魚の骨がツメの間に刺さり、ツメの廻りが化膿する	
919	ツメクル	つねる	[同] チミクル
920	ツメデホジル	小さなアラをさがす	
921	ツラウリ	姿売り	[漁業水産加工業用語] 東京市場では箱売り、姿売り(ツラウリ)、関西では目方売りのためカンダイと言った
922	ツラマス	【→】 ツカマス	
923	ツラマル	捕えられる	
924	ツリオトシ	釣針で口が傷つき餌が食べれなくなって痩せた魚	ラッキュー鰹になって食料不可
925	ツンツルテル	丈の短い着物やズボン	
926	ツンヨイ	【→】 ヅナイ	

テ

	浜言葉	訳	備考 (用例、類語など)
927	テーシタモンダ	えらいもんだ	
928	テウエ	上手	
929	デュージモンジ	大切にする	
930	テューショオ	大将	
931	テーグヤーニショー	ええかげんでやめろ	
932	テーシテ	少しも	
933	デガアル	長い距離がある	
934	テシオ	小皿	
935	テッチャ パッチャ	手早く	[例] テッチャ、パッチャやらないと魚がくさるぞ
936	テッポーダマ	用事に出て中々帰らぬ人	
937	テヌゲー	手拭い	テヌゲー襦袢 (魚河岸シャツ)
938	テヌゲージュバン	魚河岸シャツ	
939	..テヤー	人柄、人物像	[例] アンテヤー コンテヤー ソンテヤー
940	デンガラカエス	倒す	
941	デングリカエス	逆さにする	
942	テンダイ	手伝い	
943	テンダイシュウ	手伝う人々	
944	テンダイテ	手伝う人	
945	テンヅリアウ	二人仲良しいつも一緒	(御神酒徳利)
946	テンデ	まるっきり自分勝手	[例] テンデなっちゃいない テンデにやれ
947	デンボウ	子供の頭に出来る腫れ物	梨の心棒を食べると出来ると云った
948	テンボケ	手桶	
949	テンデッコ	自分の思う通り	

950	テンマ	子ども	子供は伝馬船みたいに小さいので
-----	-----	-----	-----------------

ト

	浜言葉	訳	備考（用例、類語など）
951	トオキョー	耳の遠い人	東京は遠かった
952	トーキー	独り言を言う人	
953	トーサンバイコ	両手をひろげて通行の邪魔をする	
954	ドーシスカ	どうしようか	
955	ドーシッカ	どうしようか	
956	トーフ	四角なテトラポット	昔、テトラポットは四角形でトーフと言った
957	トーフ	病気の鱧 生利にならない	[同] アテ、ガンチョオ
958	ドーマンナカ	中心	
959	トーマガネ	双眼鏡	
960	ドージャラスカ	どうしようか	
961	ドージャラッカ	どうしようか	
962	ドーラン	肩掛けかばん	
963	トーリイッペン	たった一度だけ	
964	トーンロイ	うす馬鹿	
965	トオヅツ	10ヶずつ	
966	ドカス	動かす	
967	ドクションバイ	強く塩辛い	
968	ドクッポイ	化膿しやすい	
969	ドケー ウッチャラ エーダ	どこへ捨てればよいですか	
970	・・トコ	所	[類] アントコ(あの所) ソントコ(その所) コントコ(ここ)
971	トコバ	床屋	
972	ドコラヘン	どのあたり	

973	トコロトッパシ	所どころ	
974	トコロシ	ところが	
975	トジカル	糸がからむ	
976	トジクル	糸がからむ	
977	トズラ	砥石の面	
978	ドツカデ	どこかで	
979	トックノムカシ	遠い昔	
980	ドツケーモ	どこへも	
981	ドッコイドッコイ	少しも変わらない	
982	ドッチモドッチ	五分五分 (同じようなもの)	
983	トッチャン	父さん	
984	トツカマラズニ	物につかまらずに	病人など歩くとき、物につかまらずに歩く
985	トツツキヒツツキ	まつわりつく	
986	トツテテアル	残してある	
987	トットイテ	残しておいて	
988	トットク	しまっておく	
989	ドデューヤーコデュー	まるっきり	
990	ドニンシュー	葬式を手伝う人	
991	トビスアクレル	飛びまわる	
992	トビックラ	運動会	
993	トビッコ	競争	
994	ドビッチョ	水たまり	
995	トブ	走る	
996	ドブッチョ	側溝	
997	ドベ	一番遅い人	
998	ドベッカス	一番遅い人	
999	トボラエー	葬式	

1000	トヤヲクウ	干物が長雨のため不良品になってしまう	
1001	トンガリカータ オンナ	トゲのある女	
1002	トンガル	先がとがっている	
1003	ドンクライ	どのくらい	
1004	トンジャカナエー	無頓着	
1005	ドンツクツー	失敗ばかりする人	
1006	ドンヅラ	その顔付	[例] ドンヅラ下げて何の用だ
1007	トンデコイ	走ってこい	
1008	ドンドノオカメサン	どんど焼(1月14日に行う)	左義長(さぎちょう)と言う所もある
1009	ドンドノカミサン	どんど焼(1月14日に行う)	
1010	ドンネエーフー	どんな様子	
1011	ドンブクレ	厚着の姿	
1012	ドンボリ	池沼	

ナ

	浜言葉	訳	備考(用例、類語など)
1013	ナーニッカ	色々	
1014	ナーモン	「縄魚」「〇三」の魚市場では、夕市を知らせるため鐘を振って魚屋に知らせた	[漁業水産加工業用語]
1015	ナーナー	片付け	幼児言葉
1016	ナーナー シロ	仕舞なさい	幼児言葉
1017	ナグラ	台風の際は波が黒石川を逆流して、川は塩水となってフナやドジョウが浮いた	[同] ヨタ
1018	ナスンバ	なんにもない歯	
1019	ナゼクル	なでまわす	
1020	ナデクル	なでまわす	

1021	ナッカニイ	仲の良い友人	
1022	ナナンヅツツ	7個ずつ	
1023	ナビヤー	様子	
1024	ナミテェーテノコン ジャーネー	非常に困難な事だ	
1025	ナメズル	なめる	
1026	ナモナェーコンダッキ	とんでもない馬鹿を見た	
1027	ナライ	北東の風	北東から吹く風（南風は ニヤと云う）
1028	ナリキサー	粗雑な人	
1029	ナリョーツケル	格好をつける	
1030	ナルタケ	なるべく	
1031	ナンショカンショ	なにしろ	
1032	ナンズラ	なんでしょう	
1033	ナンナイ	鳴らない	
1034	ナンノコターナイ	どうという事はない	

ニ

	浜言葉	訳	備考（用例、類語など）
1035	ニイヤカ	賑やか	
1036	ニガワタ	内臓の一種で、雑ワタ	[漁業水産加工業用語]
1037	ニテャーオ	煮た魚、船のおかずにした切り身の生利ぶし	
1038	ニナイオケ	かつん棒の両端にタル、桶がついていて海水を運ぶのに利用した	[漁業水産加工業用語]
1039	ニナイボー	かつん棒の両端にタル、桶がついていて海水を運ぶのに利用した	[漁業水産加工業用語]
1040	ニナイダル	かつん棒の両端にタル、桶がついていて海水を運ぶのに利用した	[漁業水産加工業用語]
1041	ニノヘンジ	すぐ賛成すること	

1042	ニビイテアー	感の悪い人	
1043	ニヤ	南の空	
1044	ニワ	家の中の土間（庭ではない）	
1045	ニワットリ	ニワトリ	

ヌ

	浜言葉	訳	備考（用例、類語など）
1046	ヌキダライ	生利の骨や皮を取る時に使うタチオケの大きい桶	[漁業水産加工業用語]
1047	ヌクトイ	暖かい	
1048	ヌスンド	泥棒	
1049	ヌリタクル	沢山塗りつける	
1050	ヌレクサル	ずぶ濡れ	
1051	ヌレコンボー	ずぶ濡れ	
1052	ヌーンルイ	ぬるい	
1053	ヌンルクタイ	ぬるいなあ	

ネ

	浜言葉	訳	備考（用例、類語など）
1054	ネール	眠る	[類] ネブイ
1055	ネエーッタ	眠った	
1056	ネエーチャウ	眠ってしまう	
1057	ネエーチャッタ	眠ってしまった	
1058	ネーラカス	眠らせる	
1059	ネーラエナエー	眠れない	
1060	ネエータ	泣いた	
1061	ネエーッタッテル	沸騰している	
1062	ネカタ	高草山三霊の坂本、石脇	[同]ヤマンネ(富士山麓は根方地方と言う)
1063	ネキ	古くなった生物	

1064	ネコマンマ	御飯に鯉節をかけて混ぜる	
1065	ネコグルマ	魚を運ぶ四輪の小さな車	
1066	ネションベンタレ	未熟者と馬鹿にする	
1067	ネチギャアール	寝ていて首の筋を痛める	
1068	ネッカチ	土地に長くいる人 根付いている人	
1069	ネッコー	木の根、はれものの芯	
1070	ネト	傷んだ食物に出来るペトペト、カビの一步前	
1071	ネチ	傷んだ食物に出来るペトペト、カビの一步前	
1072	ネブイ	眠い	[類] ネール
1073	ネブツタイ	眠たい	
1074	ネブツ	はれもの おでき	

ノ

	浜言葉	訳	備考 (用例、類語など)
1075	ノーオマタ	ねえ、あなた達	
1076	ノーオマン	ねえ、あなた	
1077	ノーノサン	仏様 仏壇 オジブツサン	
1078	ノーンロイ	遅い	
1079	ノシテ	乗せて	
1080	ノシテクレオー	乗せて下さい	
1081	ノショー	乗せろ	
1082	ノシラ	お前ら	漁師言葉 岡者(おかもん = 漁師以外)は使わない
1083	ノタル	這う	
1084	ノタクリマワル	這いまわる	
1085	ノマ	ホコリ	

1086	・・ノン	・・のが	
1087	ノンキッサー	のんきな人	
1088	ノンナイ	乗らない	

ハ

	浜言葉	訳	備考（用例、類語など）
1089	・・パナシ	後始末をしない	[例] ヤリッパナシ カリッパナシ シッパナシ
1090	バカーイエ	冗談だろう	
1091	バカアチー	非常に暑い	
1092	バカーユウナ	冗談を言うな	
1093	バカサビー	非常に寒い	
1094	バカッター	馬鹿だなあ	
1095	バカパヤイ	大変に速い	
1096	バカンハナ	馬鹿が鼻汁をなめる様に他愛がないこと	
1097	ハギル	選別する	
1098	ハクシヨン	くしゃみ	
1099	ハエガシラ	ハエの頭に似ている縛り方	
1100	ハクソ	歯垢（しこう）	
1101	ハジツチョ	先端 防波堤 釣サオなど	
1102	ハジツポー	先端 防波堤 釣サオなど	
1103	ハナツチョ	先端 防波堤 釣サオなど	
1104	ハジマキ	鉢巻	
1105	ハシャグ	乾く	
1106	ハシヨオリ	尻ばしょり	
1107	ハシヨオル	不足する	

1108	ハスバカリ タッシャ	口ばかり達者	
1109	ハダシタビ	足袋靴	
1110	ハダッテ	わざと	
1111	ハチ	鰹の首すじ	[漁業水産加工業用語]
1112	ハチヨオ クウ	約束を破られる	
1113	…バッカ	…ばかり	[例] コレバッカ ウソ バッカ ソレバッカ
1114	パッサリスル	よく乾いて気持ちが良い	
1115	バッチラアウ	奪い合う	
1116	ハテエータコトヲシタ	馬鹿を見た	
1117	ハナエーテヤル	①放してやる ②話を してやる	
1118	ハナツカミ	チリ紙	
1119	ハナツカラ	最初から	
1120	ハナツサキ	目の前	
1121	ハナデスルヘンジ	フンと馬鹿にした返事	木で鼻をくくること
1122	ハナミズコ	鼻水	
1123	ハナラカス	離す	[例] 競争で2番をハナ ラカス
1124	ハバカリ	便所 【→】 ウンコヤ	軍隊ではカワヤと言った
1125	ハバシー	売れ行きが良い	
1126	バフンシ	馬糞紙	茶色のボール紙
1127	ハマ	海岸 魚市場	
1128	ハマイキ	海岸で皆で酒を飲んだ り弁当を食べる	4月5日の水天宮のお祭り のときの慣習
1129	バラオトシテカゼ	冬、少し雨が降ると西 風は強くなる	
1130	ハラバタ	魚の内臓 (ハラワタ)	[漁業水産加工業用語]

1131	ハリコンボー	鉢合わせ	
1132	ハリツケオニ	角力(すもう)で負けた者が鬼になる	負けると次に勝つまで鬼で居なければならない
1133	ハリツケコ	角力(すもう) 力比べの遊び	
1134	バンカタ	夕方	[同] バンゲンシマ
1135	ハンキ	歯肉	
1136	バンゲンシマ	【→】 バンカタ	
1137	ハンゲン	半夏生	関西では、この日は生利が多く売れた
1138	ハンタビ	普通の足袋に底をつけ、運動会に履いた	
1139	バンタビ	幾度も	[類] ソノタンビ
1140	ハンド	窓 (半戸)	
1141	ハンベアー	はんぺん	
1142	ハンビョオクリョー	はんぺんを下さい	
1143	ハンミチ	半里 (2 km)	

ヒ

	浜言葉	訳	備考 (用例、類語など)
1144	ヒーテオキ	一日置き 隔日	
1145	ヒーテマシ	日一日とだんだん 日毎に	
1146	ヒーナサン	ひな人形	
1147	ヒーマ	一服	[例] 小便ヒーマ
1148	ヒーシロイ	広い	
1149	ヒカラビル	乾きすぎ	[類] カーバル
1150	ヒザコソ	膝小僧	
1151	ヒズラシー	まぶしい	[同] ヒンズラシー 静岡ではヒドロシー
1152	ヒチ クタビレル	大変、疲れる	
1153	ヒッ〇〇	強く〇〇する意味	[同] ヒン〇〇

1154	ヒッコロバス	転ばせる	
1155	ヒッサバク	やぶく	
1156	ヒッシバル	縛る、結ぶ	
1157	ヒッタオス	倒す	
1158	ヒッチラカス	散らかす	
1159	ヒッピロゲル	拡げる	
1160	ヒッパタク	なぐる	
1161	ヒッツコイ	うるさくつけまわる	
1162	ヒッチラン カオ	知らぬ顔	
1163	ヒッポカス	投げ出す	
1164	ヒトロマワス	船の出港日時を知らせて歩く	
1165	ヒドコマエ	船の台所、司厨長	
1166	ヒトダル	一斗樽	
1167	ヒトツカラゲ	一網打尽	
1168	ヒトツテ	一人で	
1169	ヒトヨーサ	一晚	
1170	ヒトリデマ	一人で仕事をする	
1171	ヒトンヅツツ	一つずつ	
1172	ヒナタブクリ	日向ぼっこ	
1173	ヒナル	悲鳴	
1174	ヒネ	古くなった魚など	
1175	ヒネクル	ねじる	
1176	ヒボ	ひも	
1177	ヒマッサイ	葬式など余分な手伝い	
1178	ヒミクリ	一枚ずつめくるカレンダー	
1179	ヒメノリ	洗濯の時使うのり（今は使わない）	
1180	ヒューキンダケ	火吹き竹	

1181	ヒュートシドン	こおろぎの仲間（カマドーマ）	夜になると家の中で鳴いた
1182	ヒョーロクダマ	ヒョロヒョロして何も出来ない人	
1183	ビリッカス	運動会などで一番遅い人	
1184	ヒル	干く かわく	
1185	ヒロヒロ	物欲しげに	
1186	ヒロンバ	広場	
1187	ビンギ	便り 連絡	
1188	ヒンズラシー	【→】ヒズラシー	
1189	ビンチョビンチョ	どっちもどっち、同じ事	
1190	ヒン〇〇	【→】ヒッ〇〇	
1191	ヒンズブス	踏みつける	
1192	ヒンナグル	強くなぐりつける	
1193	ヒンナゲル	強く投げる	
1194	ヒンマゲル	強く曲げる	
1195	ヒンミシクル	強くむしり取る	

フ

	浜言葉	訳	備考（用例、類語など）
1196	ブーショッタイ	いやらしい	
1197	ブショオタワシ	デッキブラシ	
1198	ブショッタイ	汚い	
1199	ブショッタラシー	汚らしい	
1200	フゼーダ	藤枝	
1201	ブソクル	【→】チンブリカク	
1202	フターリ	2人	
1203	フターリツツ	2人ずつ	
1204	フタッテ	2人で	
1205	フタンヅツツ	2ヶずつ	

1206	フッカケ	俄か雨	
1207	ブッキチョ	無器用	
1208	ブッサラウ	なぐる	
1209	ブッサリヤー	粗雑な仕事	
1210	ブツタイ	川で魚を捕る道具	[類] コーロン ウゲ (黒石川で捕った)
1211	ブッパライ	ちりはらい	
1212	ブト	ブヨ	
1213	フネヲ ナガス	自分の持舟で漁をする	
1214	フライキ	大漁旗	
1215	フリースル	自分の意思とは反対の 言動をする	幼児がする
1216	フンズバス	踏んじやった	
1217	フンズブス	踏みつぶす	
1218	フンダラゴー	グジャグジャに踏みつ ぶされる	
1219	フント	本当	[同] フントー
1220	フントッコ	真面目にやろう	
1221	フンルイ	古い	

へ

	浜言葉	訳	備考 (用例、類語など)
1222	ヘアーリット	途中の入口	
1223	ヘーキノヘーザエモン	平気だよ	平気の平左
1224	ヘーダケーガ	【→】 セーダケーガ	
1225	ヘーダモンデ	【→】 セーダモンデ	
1226	ヘービ	蛇	
1227	ヘービバンバ	とかげ	
1228	ヘサエーエル	おさえる	
1229	ヘソ	鰹の心臓	[漁業水産加工業用語]
1230	ヘターシルト	悪い予感	

1231	ヘッタクター	へたくそ	
1232	ヘッタクリン	構わない	[例] くそもへタクリンもアラスカ
1233	ペッタン	メンコ	
1234	ヘツツイ	かまど	
1235	ヘデモナエー	簡単な事だ	
1236	ヘニモナラネエー	なんの儲けにもならない	
1237	ヘノヘリヨオ	方法	
1238	ヘモカガサヌ	無関心	
1239	ベンカンベンカン	①長時間 ②長期間	人を待った時に使う [例] ベンカンベンカン待ったケーが来ねえ
1240	ベンベエ	子供の着物	

ホ

	浜言葉	訳	備考（用例、類語など）
1241	ボイックラ	鬼ごっこ	
1242	ホイテ	干して	
1243	ホーキン	ほーき	
1244	ホーケタ	古くて大きい 老ボケ	
1245	ホーケル	古くて大きい 老ボケ	
1246	ホータラカシ	子供の面倒を見ない	
1247	ホータン	頬	
1248	ホータンカゼ	おたふくかぜ	
1249	ホーチョン	包丁	
1250	ホーッソイ	細い	
1251	ホーミソ	頬の汚れ	
1252	ボーラ	魚を入れる籠	
1253	ホカントコ	ほかの所	
1254	ホキダス	吐きだす	
1255	ホジクル	掘る	

1256	ホヅヲカム	不愉快な気持ち	
1257	ホックリ	鰹の肝臓	[漁業水産加工業用語] 戦前は肝油を造り、貴重で高価だった
1258	ポックリ	七五三の女の子の下駄	
1259	ポッタツ	①立つ ②建つ	
1260	ポッタッテル	人が立ち止って居る (立っている)	
1261	ホテッパラ	腹一杯	
1262	ホドンアル	程度がある	[例] 世間知らずにもホドンアル
1263	ホマチ	余徳	思わぬ手数料が入った時
1264	ホレミョー	【→】ソレミョー	
1265	ボロツツギ	ボロ布	

マ

	浜言葉	訳	備考 (用例、類語など)
1266	マーリ	まり ボール	
1267	マーンズイ	まずい	
1268	マインチ	毎日	[同] ミヤーンチ
1269	マケテモラウ	断る 不参加	
1270	マゴジーサン	曾祖父	
1271	マゴバーサン	曾祖母	
1272	マシャクニアワネエ	馬鹿を見る	
1273	マジル	混ぜる	
1274	マゼクル	混ぜる	
1275	マダラッコイ	のろのろしていらいら する	[同] マドロッカシー
1276	マドロッカシー	のろのろしていらいら する	
1277	マツダヤ	松台下駄 (焼津特産)	

1278	マッチョオヤイ	待ってくれ	
1279	マツクレ	もつとくれ	
1280	マメツタイ	元気でよく働く	
1281	マモリボッサン	守護神	
1282	マルケル	丸める	
1283	マンザイ油	マンボウの肝臓の油で 切り傷の妙薬	
1284	マンズクタイ	すごくまずい	
1285	マンボ	トンネル	

ミ

	浜言葉	訳	備考（用例、類語など）
1286	ミーンルイ	①弱々しい ②若い	
1287	ミコ	先生に可愛がられる	
1288	ミコトリ	先生にお世辞を使う	
1289	ミシテ	見せてくれ	
1290	ミシテヤル	見せてやる	
1291	ミショー	見せろ	
1292	ミシロ	むしろ	
1293	ミセザー	見せてやろう	
1294	ミセスカ	見せようか 見せない よ	
1295	ミセッカ	見せようか	
1296	ミセッサキ	家の入口	商店の店先ではない
1297	ミセヲヒロゲル	道路にゲロを吐く	
1298	ミゾー アベーク	海水浴に行く	水泳とは言わなかった
1299	ミタクデモナエー	見苦しい	
1300	ミタズラ	見ため 外見	
1301	ミツカン	みかん	
1302	ミツカンケンブツ	みかん狩り	
1303	ミツツツ	3ヶずつ	

1304	ミテゴ－	見てごらん (女性の言葉)	
1305	ミテマショウ	見よ (命令・男性の言葉)	
1306	ミバガワルイ	見ためが悪い	
1307	ミマー	見ましょう	
1308	ミミジロ	耳白 (魚屋の伴天) 反物の布地の耳が白く 出る様に作った	
1309	ミミックソ	耳あか	
1310	ミミッコスリ	ツラ当てに嫌みを言う	
1311	ミヤ－ガアワサラナー	元値が取れず損をする	
1312	ミヤ－ンチ	【→】 マインチ	
1313	ミヨー	見ろ	[例] あれをミヨー
1314	ミヨシ	船の舳先 船首	[類] ヤリダシ
1315	ミルイ	若々しい 若年者	
1316	ミンナ	見るな	

ム

	浜言葉	訳	備考 (用例、類語など)
1317	ムクル	めくる	
1318	ムクレカーテ	腹を立てる	
1319	ムコッカワ	向い側	
1320	ムセッタイ	むせる	
1321	ムツツリエモン	無口な人	戦前の時代劇映画の主人公が由来
1322	ムツツズ	6ヶずつ	
1323	ムナックソ	不愉快な気持ち	
1324	ムンズカシー	むずかしい	

メ

	浜言葉	訳	備考 (用例、類語など)
1325	メガデル	季節はずれの温かさ	
1326	メイイク	見に行く	

1327	メータデ	見えたよ	
1328	メコンジキ	ものもらい	
1329	メジャーナエ	相手にならない	馬鹿にした言葉
1330	メシル	涙	
1331	メシル、ハナシル	涙と鼻水がとまらない	
1332	メッカチ	目の不自由な人	
1333	メッソー	おおよそ	
1334	メテジャーナエー	一すじ縄ではない	
1335	メデモナエー	楽なものだ	
1336	メブシ	腹節	[漁業水産加工業用語]
1337	メメズ	ミミズ	
1338	メヲトイテ	良く見て、目を通して	
1339	メンクリダマ	目玉	
1340	メンチャー	女性	
1341	メンチャクター	女性を極端に悪く言う時の形容	

モ

	浜言葉	訳	備考（用例、類語など）
1342	〇〇モンデ	〇〇ものだから	
1343	モエッサリ	薪の燃え残り	
1344	モーケモン	思はぬ儲け	
1345	モーソー	魚の名前	
1346	モーヤー	子守をする人	
1347	モズキーキー（キーキー）	頭の毛	赤ん坊の首すじに伸ばした毛
1348	モソグル	くすぐる	
1349	モッソーメシ	粗末な食事	刑務所の食事
1350	モッタ	思った	[例] ソーモッタ コーモッタ
1351	モノイアップシ	言葉づかい	

1352	モノオケ	物置	[同] セドヤ
1353	モノビ	祭など目出たい日	
1354	モメクリカール	大もめをする	
1355	モヤ	薪	
1356	モヤンボー	細い焚き木	
1357	モリヤーッコ	養子	
1358	モンドリキヤール	ひっくりかえる	

ヤ

	浜言葉	訳	備考（用例、類語など）
1359	ヤーダヨオ	仕様がないうねえ	海釣りのエサ まずくなる
1360	ヤーランガニ	黒石川石垣の中に居た脱皮したばかりの甲羅の柔らかいカニで、爪を折ると白い汁が出る	
1361	ヤイサ	こらっ 叱る時の言葉	
1362	ヤイトオ	お灸	
1363	ヤエートー	お灸	
1364	ヤエーサ	失敗した時の掛声	
1365	ヤエーヤエー	失敗した時の掛声	
1366	ヤエーズ	焼津	
1367	ヤキダマシ	焼物が残ると二度焼く	
1368	ヤキバ	火葬場	
1369	ヤケ	魚の身が体温で変色する	
1370	ヤコメ	焼米	
1371	ヤゴロ	丁度いい時分	
1372	ヤシャゴ	曾孫の子(玄孫)	
1373	ヤスマザー	休もうよ	
1374	ヤセコ	夜食	
1375	ヤダクナル	厭になる	
1376	ヤダモン	厭だよ	

1377	ヤタラ クッタラ	訳も判らず	
1378	ヤタラクソ	やたらと	
1379	ヤツアシ	高足ガニ	
1380	ヤッキリスル	気の悪い思い	
1381	ヤケツツリ	やけど	
1382	ヤッコサン	【→】 タイショオ	見下す時の形容
1383	ヤッコラサー	ええかげんな事をするな	
1384	ヤツツンズ	8ヶずつ	
1385	ヤッテ	届けて	
1386	ヤッテ コザー	やってこよう	
1387	ヤットコサー	どうやら	
1388	ヤットノコンボ	ようやく、やっこのこと とで	ヤットカメ (久し振り名古屋弁)
1389	ヤッパシ	やはり	
1390	ヤテェード	臨時雇	
1391	ヤブセツタイ	目障り	
1392	ヤブンナカ	藪の中	
1393	ヤマニアル	沢山ある	
1394	ヤマンネ	【→】 ネカタ	
1395	ヤメザー	止めよう	
1396	ヤヤコッシー	面倒臭い	
1397	ヤラザー	やろう	
1398	ヤラショー	やらせよ	
1399	ヤラスカ	①やろうか ②やらないよ	
1400	ヤラヤスッポク	馴れなれしく	
1401	ヤリキヲツケル	①精一杯力をつける ②勢いをつける	
1402	ヤリタクモナエー	くだらない	
1403	ヤリダシ	【→】 ミヨシ	

1404	ヤリチラカシ	やりかけてやめてしま う	[漁業水産加工業用語]
1405	ヤリッパナシ	やりかけてやめてしま う	
1406	ヤリッコ	【→】クレッコ	
1407	ヤルンデ	呉れてやるから	
1408	ヤリヲツク	セリ値を叫ぶ	
1409	ヤレキタ、サァーノ	①御神輿をかつぐ時の 掛声 ②一斉に行動す る時の掛声	
1410	ヤンナイ	やらない	
1411	ヤンラカイ	やわらかい	
1412	ヤンラカタイ	やわらかい	

ユ

	浜言葉	訳	備考（用例、類語など）
1413	ユイツケル	言いつける	有言無実行
1414	ユウバッカ	言うばかり	
1415	ユェーク	言いに行く	
1416	ユスブル	揺さぶる	
1417	ユックラ	ゆっくり	
1418	ユッタラ	言ったら	
1419	ユッテル	言っている	
1420	ユニハェール	入浴する	
1421	ユンベ	昨夜	
1422	ユンルイ	ゆるい	
1423	ユンルクタイ	ゆるい	

ヨ

	浜言葉	訳	備考（用例、類語など）
1424	ヨイタクレル	きつく酔っ払う	
1425	ヨイチョボレル	きつく酔っ払う	

1426	ヨイトマケ	漁師が舟を陸に上げる時の道具	[漁業水産加工業用語]
1427	ヨーグシ	焼魚を刺す竹の串	
1428	ヨージャ	昼めしと夕食の間に食べる	
1429	ヨーセー	弱くこわれ易い	
1430	ヨーダチ	夕立	
1431	ヨーバチ	家庭で魚を入れる蓋付きの楕円形の桶(魚鉢)	
1432	ヨーッポド	余程	
1433	ヨギ	袖のある掛ふとん	
1434	ヨクシタモンデ	丁度具合良く	
1435	ヨクノカタマリ	非常に欲の深い人	
1436	ヨコツチョ	横の所	
1437	ヨサッカ	やめようか	
1438	ヨシトケ	やめとけ	
1439	ヨシマー	やめましょう	
1440	ヨジメル	足首をくじく	
1441	ヨシャーエーニ	やめればいいのに	
1442	ヨシャガレ	やめればよい(強く)	
1443	ヨショー	やめろ	
1444	ヨシンショー	やめろ	
1445	ヨセ	やめろ	
1446	ヨシンスルサ	【→】オヨー	
1447	ヨショク	浜通りの魚屋(漁師以外)	[漁業水産加工業用語]
1448	ヨセーイケ	よそへ行け	
1449	ヨソイキ	外出着	
1450	ヨソイキノキモン	上等の外出用の着物	
1451	ヨソイキノコトバ	標準語	

1452	ヨタ	【→】ナグラ	三陸海岸では津波をヨダと言う
1453	ヨツツ	4ヶずつ	
1454	ヨッピー	一晩中	
1455	ヨテン	大きな鮪は2本のカッ ン棒で4人で担いだ	[漁業水産加工業用語]
1456	ヨバール	呼ぶ	
1457	ヨバレル	ご馳走になる	
1458	ヨベーク	呼びに行く	
1459	ヨメッカー	嫁は	
1460	ヨリカカリ	他人まかせ	
1461	ヨンデヤル	ご馳走してやる	
1462	ヨンワイ	弱い	

ラ

	浜言葉	訳	備考（用例、類語など）
1463	ラコースル	楽をする	
1464	ラッキー	らっきょう	
1465	ラッキー鰹	やせて頭ばかり大きい 魚	[漁業水産加工業用語]
1466	ラムネ	ラムネを飲んだみたい に鼻がツンとする	高い所から立った姿勢で 飛び込んだ時など
1467	..ラン	..達	[例] 子供ラン おじい ラン
1468	ランゴク	散らけばなし	

リ

	浜言葉	訳	備考（用例、類語など）
1469	リシン	地震	
1470	..リョオ	..ヲ	[例] コリョオ（これ を）
1471	リョークロ	両側の隅	
1472	リンリキシャ	人力車	

ロ

	浜言葉	訳	備考（用例、類語など）
1473	ロクスッポー	まるつきり	[例] ロクスッポー何にも出来ねえテャーダ
1474	ロクツタマ	まるつきり	

ワ

	浜言葉	訳	備考（用例、類語など）
1475	ワカラスカ	判らない	[例] 一年経つのはワ キヤーナイ 「若い衆」を指す [類] アシャー
1476	ワキヤーワッサン	全然判らない	
1477	ワッキヤーナイ	容易、たやすい、楽なものだ	
1478	ワキヤーシュウ	①使用人 ②若者	
1479	ワシ	私達(女性)	
1480	ワシャー	私(女性)	
1481	ワシラー	私達(男性)	
1482	ワスレボッタイ	忘れ易い	
1483	ワヤーラ	貴様達	
1484	ワラカス	笑わせる	
1485	ワランジ	草蛙	
1486	ワリーケーガ	申し訳ないが	
1487	ワリヤー	貴様	
1488	ワレ	お前	

ン

	浜言葉	訳	備考（用例、類語など）
1489	・・ン	浜言葉では・・ガを使わず、言葉を短くして・・ンにしてしまう	ウミ (海) ンアル ヤマ (山) ンアル イヌ (犬) ンイル ヒト (人) ンク (来) ル アメ (雨) ンフ (降) ル

追記

浜言葉	訳	備考（用例、類語など）
マンガチ	自分勝手な人	おばあさんたちが、しばしば子どもたちに対して使っていた [例] あの子はマンガチでションネエヤ

浜言葉版 紙芝居
『津波だ！いなむらの火をけすな』

浜言葉版

津波だ! いなむらの火をけすな

脚本／桜井信夫 画／藤本四郎



1

海辺の村です。

ソリヤー（それは）、江戸時代の末のコトダッチョ（こと）、十一月のはじめ、ある日の夕方でした。

紀州、和歌山の広村ジャア（では）、秋の取り入れが終わチャッテ（終わり）、田んぼニヤー（には）、いくつものいなむらが、ならんでいました。

村人①

「米ン（が）ターント（たくさん）取れたし、エエ（いい）わらも残ったし、ありがたい、ありがたい。」

村人たちは、こういって、喜びました。かり取ったあとの、いねのわらは、大切な使い道ン（が）あって、たばにして、高く積み上げておきます。コレン（これが）、「いなむら」です。ソオシテ（そして）村人たちは、そろそろ、冬の準備にとりかかっていました。

（少しの間）

— ぬきながら —（注）

ゴオーツ

注：紙芝居の絵を横に引きぬきながら語る。

（原文を適宜、浜言葉に置き換えるとともに、カタカナ表記としました）



2

地鳴リン（が）して、大地ン（が）、家ン（が）、はげしくゆれ動いたのです。

— 上下左右に画面をゆすりながら —

村人①

「おおっ、地震だ！ イケエ地震ダゾ（大地震だ）！」

村人たちは、家の外にとび出しました。

こども①

「きゃーっ。」

こども②

「オッカナイヨウ（こわいよう）。」

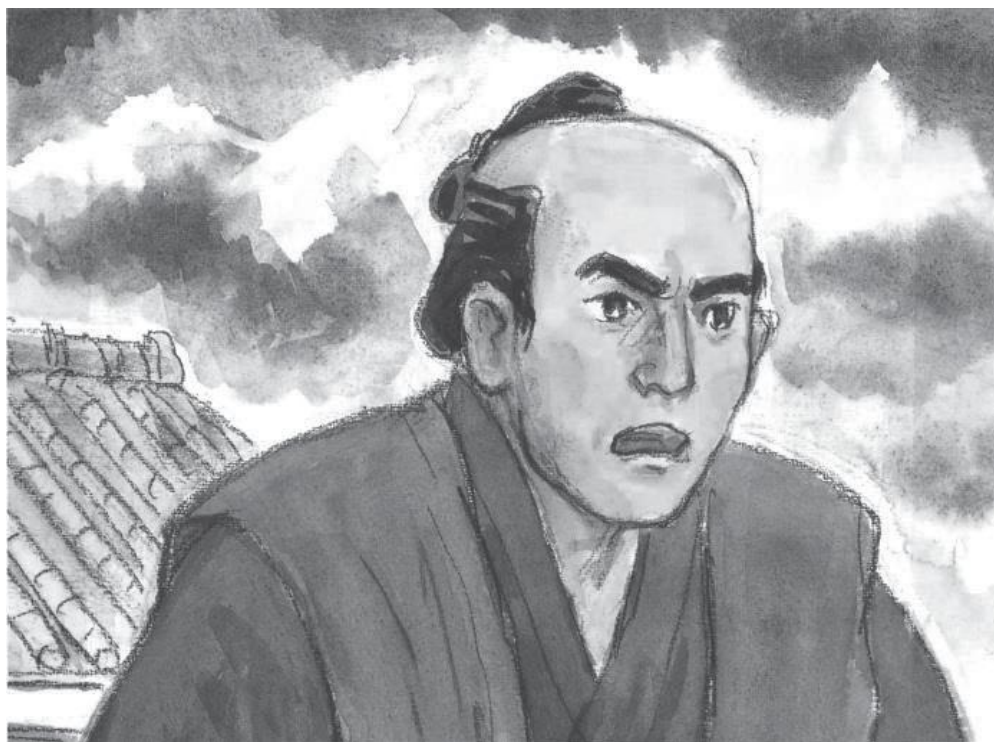
こどもたちは、親にしがみつきました。

（少しの間）

カベン（かべが）くずれ、カタビッコになった（かたむいた）家から、けむりのように、ほこりがまい上がりました。

— さっとぬく —（注）

注：紙芝居の絵を素早くぬいて次の絵を見せる。



3

広村をおさめる庄屋として、村人にしたわれている濱口儀兵衛も、家族といっしょに家の外に出ました。

儀兵衛

「わが家は、だいじょうぶダケーガ（だが）、村の衆（村人）たちは、無事だろうか……。」

空には、マッ黒い（黒い）雲と白い雲とが、あやしく入りまじって広がり、遠くの雲ン（を）切りさくように、するどい光が走りました。しかも、その遠い海の向こうのホオ（むこう）から、

ドドン ドドン ドドン

大砲ン（が）とどろくような音ン（が）、聞こえてきたのでした。

儀兵衛

「コリヤー（これは）、オッカネコトン（おそろしいこと）になる……。」

— 三分の一ぬく —（注）

儀兵衛は家族に、

儀兵衛

「いますぐ、丘の上、一本松から広八幡神社のほうへ、ひなんショオ（しなさい）」

— 残りを全部ぬきながら —

と命じて、自分は家の中に入りました。

注：絵の三分の一ぐらいを横にぬいた状態で語る。



4

儀兵衛の妻

「ナニヨー（何を）シルン（なさるの）ですか」

儀兵衛は、たいまつに火をつけながら、

儀兵衛

「津波ダゾ（だ）。モウ チット シルト（まもなく）、津波ン（が）おしよせてクルゾ（くる）。

村じゅうに、危険を知らシ（せ）て歩く間はない。田んぼのいなむらに、火をつけて、合図シルンダ（するのだ）。」

— さっとぬく —



5
儀兵衛は、トビマシタ（走りました）。
いなむらのひとつに、火をつけます。
よくヒカラビテル（かわいている） いなむらは、ぼっと燃え上がりました。

— 半分ぬく —

次から次へ、次の田んぼへ。儀兵衛は、トンデ トンデ トビマクリ（走って走って）・・・。

儀兵衛

「みんな、早く集まってこいよ。ソオーシテ（そして）、丘へひなんシルノダゾ（するのだ）。」

— 全部ぬく —



6

村人①

「庄屋さまのトコロン（所が）、火事だぞ。」

村人②

「庄屋さまに、何かあったら大変だ。」

村人③

「それ、火オー（を）ケセエイケ（けしにいけ）。」

村人たちが、すぐさま、集まってきました。こんな時ニヤー（には）、村じゅうひとり残らず、火けしに、加わることになってイタンダッテ（いたのです）。

— ぬきながら —

若者たち

「庄屋さまあ。」



7

まっ先にやってきた若者タチン（たちが）、火オー（を）ケサッカ（けそう）とすると、儀兵衛ン（が）おしとどめました。

儀兵衛

「津波だ！いなむらの火を けすな！」

若者たち

「庄屋さま！どうユウワケ（して）ですか。」

儀兵衛

「津波だ。津波ン（が）くる。村の衆（みんな）が、集まってきたかどうか、たしかめるのだ。ソーシテ（そして）、一本松から、広八幡神社のほうへ、みんなア（を）ひなんさせるンダ（のだ）。」

若者たち

「はい、庄屋さま。」

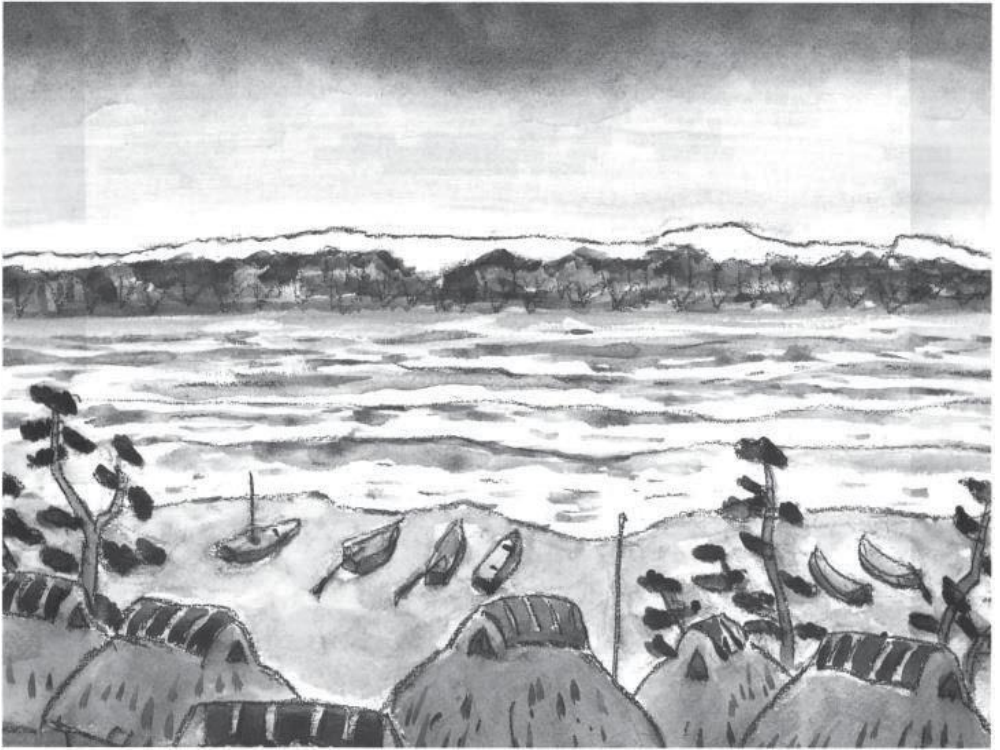
— 少しずつぬきながら —

こうして村人タチン（たちが）、タケエ（高い）所にひなんした時、

儀兵衛

「アレー ミヨオー（あれを見ろ）！」

— さっとぬく —



8

儀兵衛が、海のむこうを指さしました。

村人たち

「ナンズラヨー（なんだろう）！」

村人たちは、おそろしいものを見ました。まさに、暗くなりかけた沖の海に、長く黒い帯が広がり、こちらに、ぐんぐんせまってきます。

ドドドウン

村人①

「津波だ！」

村人②

「津波ン（が）くる！」

— ぬきながら —

グウオーン



9

人々は、思わず身ぶるいしました。

海辺の村が、水ケブリ（けむり）とともに、津波におそわれたのです。

村のナンデモ カンデモ 全部のモン（すべてのもの）が、さかまく波にのみこまれ、すがたを失っていきました。

（少しの間）

ついサッキ（先ほど）まで、津波ン（が）くることを知らずに、アントコ（あそこ）にいたのだと、村人たちは気づきました。

村人

「おう、オトマシー、オッカナエコンダ（おそろしいことだ）。」

時をおいて、津波は二度、三度と、おそってきました。

— ぬきながら —



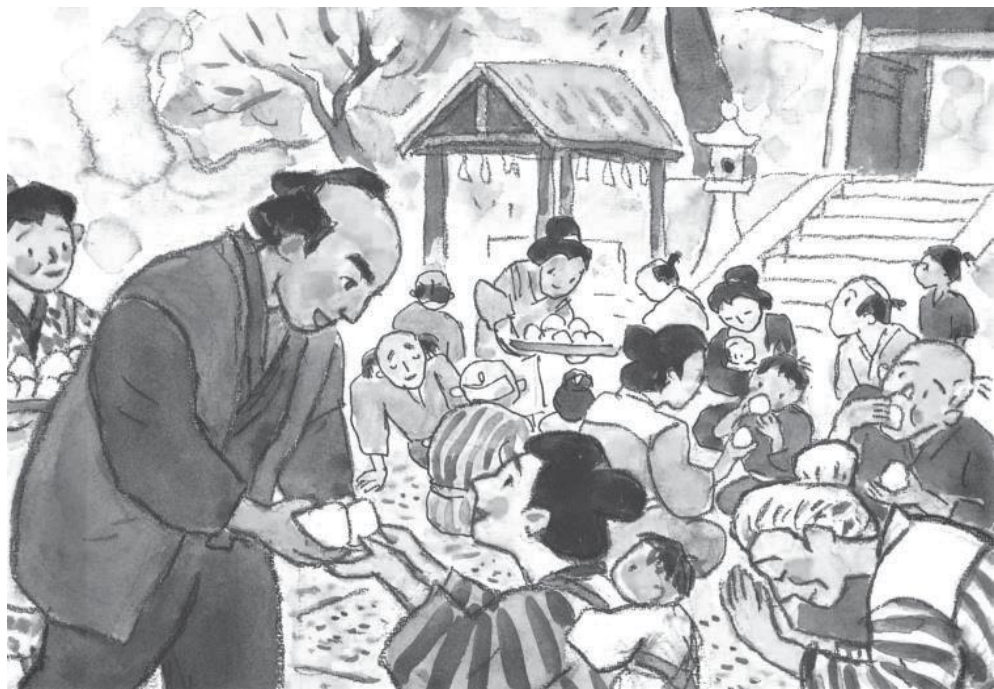
10
村人たちは、ずらりと、儀兵衛の前にひざまずいて、頭ア（を）下げました。

村人①
「おかげさまで命ン（が）助かりました。」

村人②
「庄屋さま、ありがとうございます。」
儀兵衛は、うなずきながら、いいました。

儀兵衛
「浜ロン（の）家には、『イケエ地震（大地震）のあとンには津波ン（が）くる』という、言い伝えがあつてな。とっさに、それを思いデエイタダ（起こした）。ご先祖さまの、言葉のおかげだ。」

— めく —



11

儀兵衛は、若者たちオ（たちを）引きつれて、となり村エ（へ）いき、たくわえ米を借りてきました。

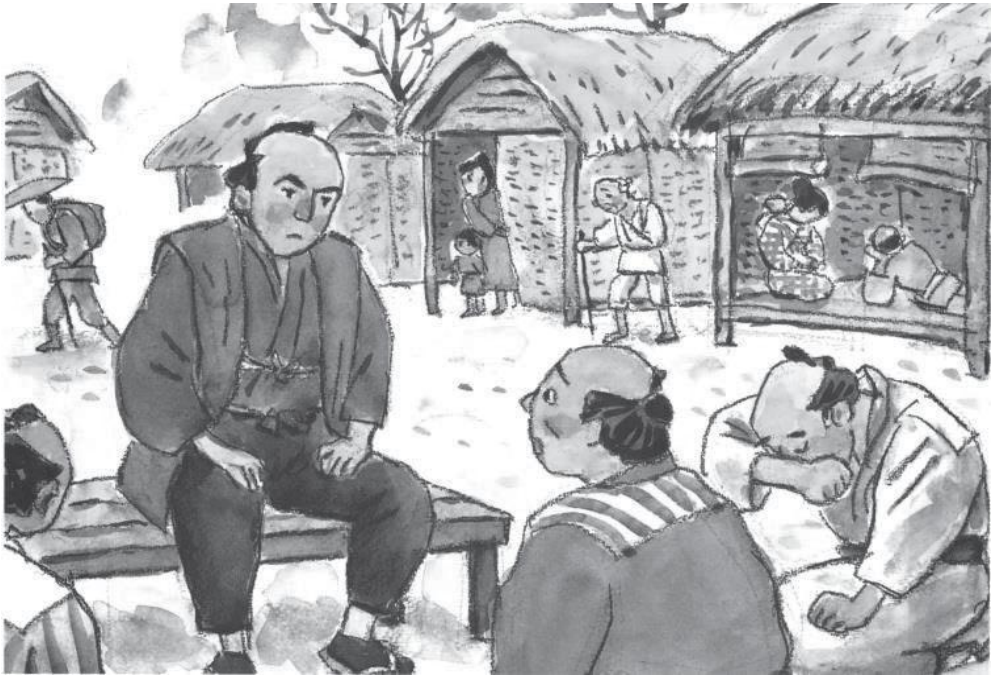
ソオシテ（そして）、おかみさんたちン（たちが）、米をたき、にぎり飯をつくりました。

儀兵衛

「さあ、コリヨオ（これを）食べて元気を出しなさい。」

儀兵衛が、先頭に立って、みんなに配って歩きました。

— めく —



12

やがて、余震が続くなか、あれはてた村に、いくつもの仮小屋が、つくられました。村人タチン（たちが）、立ち直りの一歩をふみだしたのです。トコロン（ところが）、津波によって、ナンデモカンデモ全部（何もかも）失ってしまったある村人は、儀兵衛に、

村人①

「もう、広村には、住んでいられません。働き口をさがしに、よその村へうつろうと 思います。」

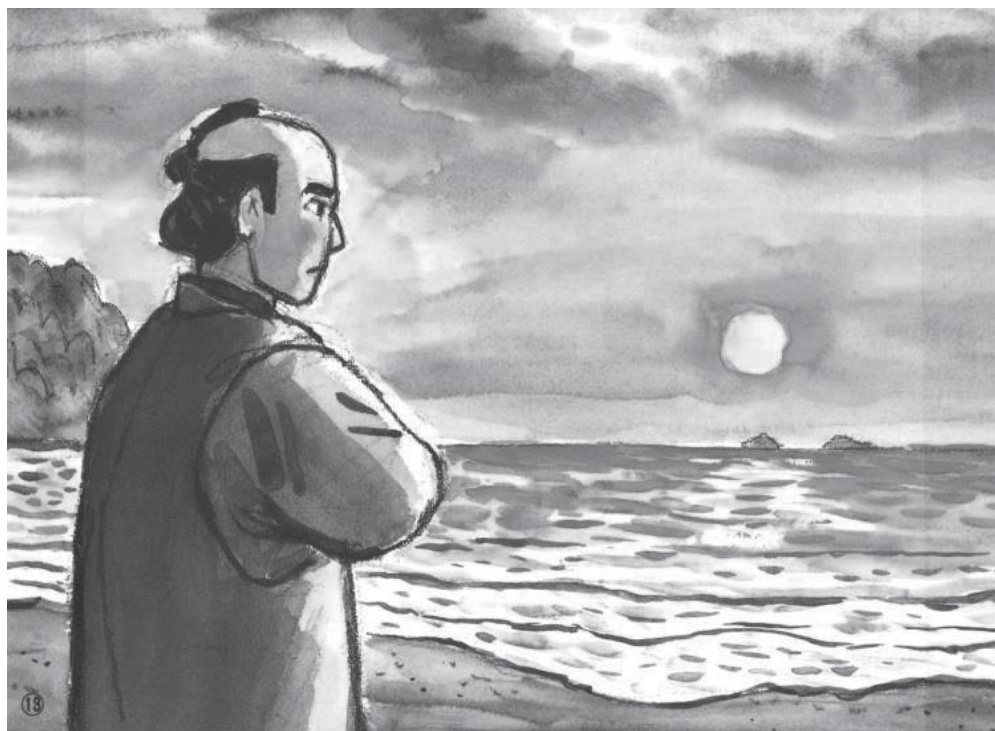
また、ある村人は、

村人②

「またいつか、津波がくるかもシンネエ（しれない）と思うとオッカナクテ ゴセツポクナクテたまりません（こわくてなりません）。もっと、安全なトケエ（所へ）いきます。」

と、なみだながらに、うったえました。

— めく —



13

儀兵衛は、浜辺によせる波を見つめていました。天洲ヶ浜と美しく名づけられたこの浜辺。

儀兵衛

「コントコ（ここ）に、津波をふせぐ堤防をツクラスカ（つくろう）。村人に働いてもらえば、ソレン（それが）働き口になる。ふるさとン（が）よみがえるのだ。」

儀兵衛は、ひとり、うなずきました。浜口家ジャア（では）、ムカシカラ（むかしから）、銚子でしょうゆをつくり、江戸で大きな商売をしています。

儀兵衛

「働く人の給料や、堤防づくりのすべてのお金をだすと、大金が必要だが、なんとかしてでも、やりぬこう。」

と、かたく決心しました。

— ぬく —



14

さっそく、工事ン（が）始まりました。儀兵衛が調べたところ、広村はココントコ（ここ）五百年の間に、ダエテエ（ほぼ）百年ごとに、大津波におそわれていることが、わかりました。

むかしの津波のようす、こんどの津波のようすをもとに、儀兵衛が堤防の設計をし、工事のさしゾオ（指図を）しました。村人たちは、よく働きました。

村人①

「村ァ（を）守るために、がんばろう。」

村人②

「男衆（男）も女衆（女）も、働けば、すぐにお金がもらえる。ありがたい、ありがたいコンダ。」

村人③

「田畑の仕事ン（が）、いそがしくナリヤア（なれば）、工事のほうは休みにナルチオウ（なるとか）。」

村人④

「コンナエ（こんなに）、働きがいのあるコタアナーナア（ことはない）。」

— ぬく —



15

4年の月日、多くの人々の力、それに大金をかけて、りっぱな堤防が完成しました。

(少しの間)

いなむらの火ン（が）燃えた時の、安政南海地震津波から九十二年後、昭和南海地震の時ンには、予想したように、大きな津波ン（が）おそってきました。

しかし、堤防は駄目になる（ゆるぐ）ことなく、人々を津波から守りました。

— めく —



16

和歌山県広川町の堤防ジャア（では）、毎年十一月に、津波まつリン（が）おこなわれます。

こども①

「いなむらの火オー（を）わすれません。」

こども②

「堤防づくり、ありがとうございます。」

こどもたち（が）それぞれに、一ふくろずつの土を堤防に運び、積み上げています。

ソオシテ（そして）、

こどもたち

「みんなで ふるさとを守ります。」

と、防災の心をあらたにするのです。

おわり

焼津ゆかりの小泉八雲と浜言葉版紙芝居

■小泉八雲が発掘した浜口梧陵

1854年（安政元年）12月24日の夕刻、「安政の南海地震」が発生しました。和歌山県広村（現在の広川町）は、この地震による津波（安政地震津波）によって壊滅的な被害を受けましたが、浜口梧陵という人物が、村民のために、田んぼに積み上げた稲束（稲むら）に火を放ち、日没後に襲ってきた津波から逃げるための道しるべにして村人たちを誘導し、多くの命を救いました。

1896年、小泉八雲（ラフカディオ・ハーン）は、三陸海岸を襲い2万2千人もの犠牲者を出した大津波のニュースを聞き、かねて伝え聞いていた、安政南海地震津波の際に村人を救った浜口梧陵の逸話をヒントに日本人の神の概念は、諸外国のそれと著しく異なっていることをテーマとする作品『A Living God（生神様）』を一気に書き上げました。

八雲は、日本では尊敬される人物は生きながらにして神と祀られることがあると考えました。そして、穫り入れたばかりの稲むらに火を放って村人たちを高台に導き、その命を津波から救い、神として祀られた浜口五兵衛という人物の活躍ぶりをいきいきと描いています。一方、浜口梧陵は祀られることを固辞していて、八雲の作品

と史実は異なっているとも言われます。

■中井常蔵と防災の教材『稲むらの火』

小泉八雲の『A Living God (生神様)』を読んだ南部小学校教員の中井常蔵は、その内容に深く感動し、郷土の偉人・浜口梧陵の活躍を中心に小学生にも理解できる短い作品として、新たに「稲むらの火」を創作しました。同作品は文部科学省の教材として採択され、不朽の防災教材として今に伝わっています。

■紙芝居『津波だ！いなむらの火をけすな』と浜言葉版の制作

『稲むらの火』は紙芝居（桜井信夫作、藤本四郎画）にもなり、防災の大切さを訴える作品として教育現場で受け継がれてきました。静岡福祉大学附属図書館では、一般財団法人都市防災研究所のご厚意により、有志の集まりである静岡福祉大学バリアフリー文庫研究会の編集協力のもと、浜言葉版『津波だ！いなむらの火をけすな』を制作しました。また、浜言葉に置き換えるにあたっては長谷川寅吉氏のご協力をいただきました。なお、静岡福祉大学バリアフリー文庫研究会では地域の子どもたちを対象に、『津波だ！いなむらの火をけすな』の上演活動を通じた防災活動をおこなっています。

進藤令子（静岡福祉大学附属図書館）

浜言葉の辞書に学ぶ

長谷川寅吉さんが、「静岡福祉大学バリアフリー文庫研究会」に名誉市民サポーターとして参加され、早いもので1年が過ぎた。

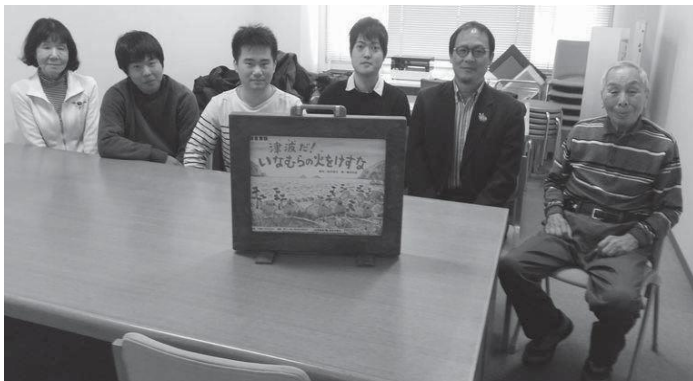
この1年間『ポンポコ山の聞き耳ずきん』をはじめとして、『津波だ！ いなむらの火をけすな』などをいっしょに演じ、多くのことを学んだ。特に言葉とバリアについて考える機会を得た。

浜言葉は、焼津の海の近くで生活する人たちが暮らしの中でつかっている方言だ。浜言葉と標準語、つかう環境が変われば互いにそれぞれをバリアと感じてしまう場合があるのではないか。また、双方を比べてみると「ちがい」が明らかになり、それぞれの言葉を前に立ちすくむことも考えられる。

しかし、この浜言葉を辞書として用いれば、浜言葉が言わんとする意味と「おなじ」言葉を標準語の中から選び出すことができる。「おなじ」意味なのに、なぜ浜言葉ではこのような言い方をするのか、この浜言葉が生まれた背景には人々のどんな生活や暮らしぶりがあるのか、知ろうとすることはとても楽しい。

バリアはなくすものではなく、「ちがい」を知ろうとし「おなじ」を感じ、バリアを越えて人として共に生活することだと学んだ。

中谷 稔（静岡福祉大学バリアフリー文庫研究会）



静岡福祉大学バリアフリー文庫研究会のメンバーと編著者(右端)

あとがき

浜通り（北浜通り、城之腰、鯛ヶ島）は昭和 25 年には 1,916 戸(11,280 人)が住んで居り、住民の殆どが魚屋と漁師で、魚屋と漁師以外を余職と呼んで職業に誇りを持って居ました。水産業の衰退で 1,300 人となり海トンボのお爺らも 1 人も居なく浜言葉を話す者は殆んどありません。

今度、静岡福祉大学の学長の太田先生が消え行く浜言葉を憂いて学長自ら先頭に立ち、浜言葉を遺す為、新しい冊子を作ってくれる事になりました。本当に有難いと思って早速お願い致しました。

方言は郷土の宝と申します。この冊子により学生さん始め若い人達が焼津の浜言葉を遺す気持ちを人々に伝えて頂ければ幸甚と思います。

学長先生始め大学の関係者の皆様有難うございました。

焼津の浜言葉を遺す会 長谷川寅吉



— 長谷川寅吉略歴 —

- 大正 13 年 7 月 23 日 焼津町北新田に生まれる
- 昭和 15 年 3 月 静岡商業第一種 3 年卒業
家業の水産加工業に従事
- 昭和 18 年 1 月 三菱名古屋発動機製作所に徴用
- 昭和 19 年 9 月 現役兵として中国へ出征
河北省から湖南省を転戦
- 昭和 20 年 8 月 湖南省長沙で終戦
岳陽の捕虜収容所にて労役
- 昭和 21 年 6 月 九死に一生を得て復員
水産加工業(生利節製造)に復職
- 昭和 45 年 二代 寅吉を襲名(旧名 米次)
- 平成 22 年 家業を引退(85 歳)

謝辞

本書の編集制作にあたり、下記の皆様のご協力をいただきました。そのほかにも、長い歴史と独自の風土、そして地域が誇る文化を愛する多くの方々の協力があり、本書は完成しました。改めて感謝申し上げます。

焼津の浜言葉を遺す会、NPO法人浜の会、焼津市歴史民俗資料館、一般財団法人都市防災研究所、八木朋美（静岡福祉大学助教）、森直之（静岡福祉大学非常勤講師）、永地茂子（静岡福祉大学バリアフリー文庫研究会市民サポーター）、静岡福祉大学附属図書館（進藤令子、中村志保、横山純子、井鍋貴子、大朋弘恵）、静岡福祉大学学生（浅田真大、鈴木啄朗、星奈央、中谷稔、荒木輝未央）



挿絵：中村志保

人情の中に包まれる

悠津の

決言葉

編者 長井川実資

発行日 平成29年7月23日

編集 静岡福祉大学

印刷 株式会社学生会と印刷工場

